

北川村国民健康保険保健事業実施計画
第 2 期データヘルス計画
中間評価報告書

令和 2 年 11 月

北川村

国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）

第 2 期 中間評価報告書

もくじ

1. 評価・見直しの目的	P. 3
2. 評価方法	P. 3
3. 個別保健事業実施計画と個別保健事業評価計画 平成 29 年度 平成 30 年度 令和元年度 令和 2 年度	P. 4
4. 経年評価指標	P. 42
5. 指標の経年データ（様式 1）と判定	P. 45
6. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に係る介護情報	P. 46
7. 中間評価の結果をふまえた課題整理、副指標の設定・見直し	P. 48
8. 事業体系図・他事業との連動（様式 2）の加筆修正	P. 49
9. 国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）第 2 期中 間見直しにおける概要図	P. 50
10. 計画全体の中間評価	P. 51

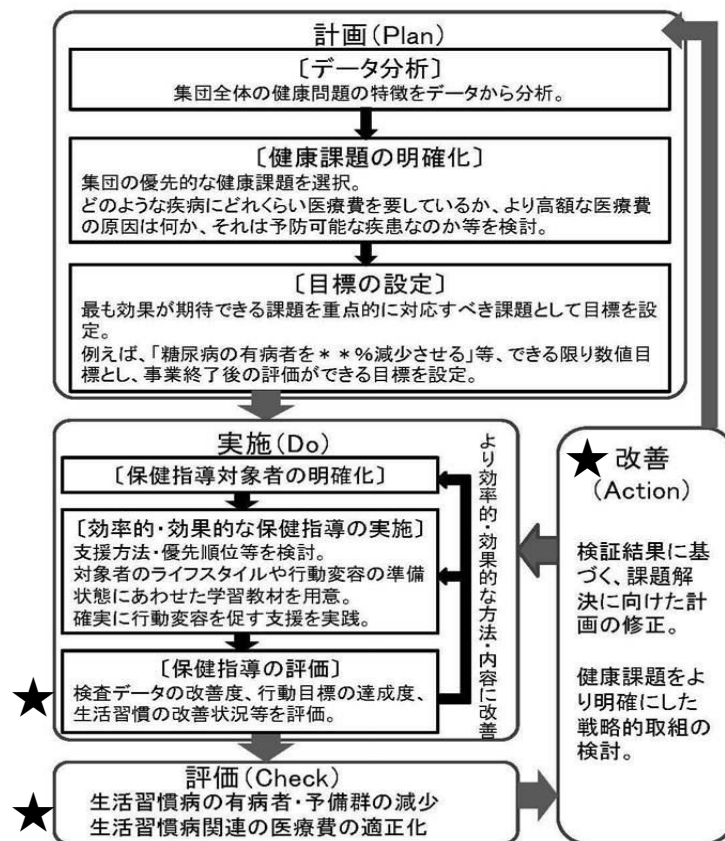
1. 評価・見直しの目的

保健事業実施計画（データヘルス計画）の中間・最終年度における目的・目標の達成状況と評価結果から課題を整理し、次期計画を修正改善することで、PDCA サイクルに沿った保健事業の実施を図ることを目的とする。（図1★印）

また、この中間評価報告書を通じて庁内や関係機関・団体との連携を強化するとともに、共通認識をもって引き続き課題解決に取り組むものとする。

図 1

保健事業（健診・保健指導）のPDCAサイクル



出典：標準的な健診・保健指導プログラム【改訂版】

2. 評価方法

「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）で用いられた「目標の評価」の方法で行う。策定時と直近値を比較したうえで、A（目標値に達した）、B（目標値に達していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（判定不能）といったように複数のレベルで評価する。

3. 個別保健事業実施計画と個別保健事業評価計画

平成30年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診動奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	1. 40～74歳の特定健診未受診者の減少 (目標受診率:52%)	40～74歳の特定健診対象者	受診動奨	・健診申込みアンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話動奨・個別訪問（健康づくり婦人会・保健福祉推進員） ・職員による声掛け・個別受診の電話動奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員	平成30年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若年者健診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	2. 若年者への健診を誘導し、受診を促す (目標受診率:20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	平成30年度	村民会館	若年者健診受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	1. 40～74歳の特定健診未受診者の減少 (目標受診率:52%)	40～74歳の特定健診未受診者	受診動奨	・集団健診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診動奨 ・職員による声掛け ・個別受診の電話動奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	平成30年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率の向上 (目標受診率:80%)	特定健診受診者のうち要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診動奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果 確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療 機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	平成30年度	被保険者宅 役場	要医療者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善 (目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話動奨を行い利用動奨する。	保健師 住民課 委託業者	平成30年度	保健センター 及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	20～50歳代を中心とした人々の生活習慣改善の機会となる。(メニュー、業者)	村民	健康教室	健康教室運動教室自分でする健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	平成30年度	保健センター 地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健康チャレンジ事業	健康活動のきっかけ作り	多くの人が健康チャレンジに取り組む	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康パスポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	平成30年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	食生活改善活動に参加することで健康意識の向上を目指す	村民	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助（健診時等に国保連よりレンタル）	食生活改善推進委員	平成30年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	多くの人が健診結果説明会に参加することで、健康への意識を高め、行動に繋げる (目標参加率:20%)	特定健診受診者 人間ドック、その他健診受診者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康パスポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	平成30年度	保健センター又は村民会館	健診結果説明会参加率

平成29年度保健事業評価計画				個別保健事業名 受診勧奨				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率	受診率:50%	平成30年度法定報告	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.5% (受診者数140人/277人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行なったか	受診勧奨者数 各地区で勧奨できたか	勧奨対象者:73人 21地区勧奨	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨者:61人 (訪問勧奨:48人 電話勧奨:13人) 不在もあったが、21地区勧奨することができた。	健康づくり婦人会と目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	①受診勧奨の時期は適切か ②受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率:50%	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.5% 健診申込みアンケート未回収者に対して、健康づくり婦人会や保健福祉推進員、役場職員が個別に勧奨を行なったことにより、50%を超える受診率に繋がった。	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②関係機関との連携は十分だったか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保していた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き、関係機関と綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成29年度保健事業評価計画				個別保健事業名 未受診者対策				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率	受診率:50%	令和元年度法定報告	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.5% ・40～74歳 (受診者数140人/277人) ・40～59歳 (受診者数21人/56人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	各地区で勧奨できたか	受診勧奨実施地区:21地区	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	対象地区全地区で勧奨することができた。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	①受診勧奨の時期は適切か ②受診勧奨の内容は適切か ③受診券の送付時期は適切か	①②③同左	①適切な時期に受診勧奨できる ②受診率:50%	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①集団健診実施後に、他町村で受診できるチラシを作成し未受診者へ勧奨した。 ②受診率:50.5%	健診申込みアンケートの内容検討や受診者の特性を分析し、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保していた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった	引き続き関係機関と、綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成29年度保健事業評価計画				個別保健事業名 個別保健指導				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価対象	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率:40%	平成30年度法廷報告	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:38.9%	保健指導の方法を見直し、参加者増に繋げる。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	保健指導対象者数 終了者率	20人 終了率:100%	平成30年度法廷報告	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	電話勧奨:15人 終了者:35%(7人) 電話勧奨を実施した。	訪問勧奨や、郵送などを行い、効果的な勧奨方法を検討していく。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	電話勧奨を中心に実施した 健診結果が分かり次第、早々に勧奨を実施できた	実施に繋がる勧奨方法を検討していく。 対象者に対し、保健指導を受けない理由などを聞き取り今後の勧奨方法に繋げていく。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた	終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っていく。

平成29年度保健事業評価計画				個別保健事業名 ハイリスク保健指導				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価段階	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (ハイリスク対象者/健診受診者)	医療機関受診率:70%	受診状況の確認・集計(KDB)	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者:61.4% (医療機関受診者:86人/健診受診者140人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	どれだけの人に医療機関へ紹介の案内を送ったか	同左	紹介状返却率:100%	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	返却率:60%(3件) 対象者全員の返却にはならなかった。	返却率100%になるよう対象者への紹介方法を検討する
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	紹介状作成日等の確認	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	—	評価方法を検討する
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	継続

平成29年度保健事業評価計画				個別保健事業名 介護予防教室				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	介護予防の知識を深めることができたか	筋骨格系患者の減少	介護予防教室の実施	医療情報の確認・集計(KDB)	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	筋骨格系患者数: 72.9%(76人) H28: 65.3%(70人) 筋骨格系患者は減少しなかったが、各地区で介護予防教室を開催することができた。	患者数の減少に向けて、介護予防教室を継続して実施する。
アウトプット	介護予防教室にどれだけ参加したか	実施回数	実施回数(10地区)	実施できたか	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	10地区 延べ419回実施できた	継続
プロセス	活動の周知は適切だったか	社会福祉協議会だよりの発行	年6回発行	発行数集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	年6回発行 予定どおり隔月で発行することができた	継続
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	事業継続

平成29年度保健事業評価計画				個別保健事業名 糖尿病教室				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	糖尿病教室の開催できたか	糖尿病患者の減少	糖尿病患者の実施	国保患者の確保率(KCB)	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	糖尿病患者数:25.2%(28人) H28:32.7%(28人) 糖尿病患者数は横ばいだった	事業内容の検討が必要
	糖尿病教室への参加したか	実施回数	実施回数	実施の有無	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	未実施	事業継続を検討
プロセス	活動の周知は適切だったか	参加人数	20人	参加者数集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	未実施	事業継続を検討
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	事業継続を検討

平成29年度保健事業評価計画				個別保健事業名 食生活推進協議会				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価段階	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	食生活を見直せたか	高血圧症の健診有所見率	健診有所見率 45%	KDBより抽出	H30年	事業担当	健診有所見率:45.2% 高血圧症の有所見率はほぼ、横ばいだった	事業内容の検討が必要
	低栄養等に対する栄養改善の実施	実施回数	実施回数 1回	実施の有無	H30年	事業担当	未実施	事業内容の検討が必要
プロセス	活動の周知は適切だったか	参加人数	20人	参加者数集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	未実施	事業内容の検討が必要
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	事業内容の検討が必要

平成30年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診動奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	1. 40～74歳の特定健診未受診者の減少 (目標受診率:52%)	40～74歳の特定健診対象者	受診動奨	・健診申込みアンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話動奨・個別訪問（健康づくり婦人会・保健福祉推進員） ・職員による声掛け・個別受診の電話動奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員	平成30年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若年者健診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	2. 若年者への健診を誘導し、受診を促す (目標受診率:20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	平成30年度	村民会館	若年者健診受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	1. 40～74歳の特定健診未受診者の減少 (目標受診率:52%)	40～74歳の特定健診未受診者	受診動奨	・集団健診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診動奨 職員による声掛け ・個別受診の電話動奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	平成30年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率の向上 (目標受診率:80%)	特定健診受診者のうち要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診動奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果 確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療 機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	平成30年度	被保険者宅 役場	要医療者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善 (目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話動奨を行い利用動奨する。	保健師 住民課 委託業者	平成30年度	保健センター 及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	20～50歳代を中心とした人々の生活習慣改善の機会となる。(メニュー、業者)	村民	健康教室	健康教室運動教室自分のできる健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	平成30年度	保健センター 地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健康チャレンジ事業	健康活動のきっかけ作り	多くの人が健康チャレンジに取り組む	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康パスポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	平成30年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	食生活改善活動に参加することで健康意識の向上を目指す	村民	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助（健診時等に国保連よりレンタル）	食生活改善推進委員	平成30年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	多くの人が健診結果説明会に参加することで、健康への意識を高め、行動に繋げる (目標参加率:20%)	特定健診受診者 人間ドック、その他健診受診者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康パスポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	平成30年度	保健センター又は村民会館	健診結果説明会参加率

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 受診勧奨				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率:52%	平成31年度法定報告	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4% ・40～74歳 (受診者数137人/272人) ・40～59歳 (受診者数20人/53人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員:62人 健康づくり婦人会:延べ321人 健診申込みアンケート提出の有無に 関係なく、PRも兼ねて啓発した。 5月、7月広報に掲載 健診前日から村内放送を実施した。	引き続き、保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率:50% ②受診率:52%	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率:36% (提出者99人/受診対象者数272人) ②受診率:50.4% 健診申込みアンケートの回収率は低かったが、結果大きく受診率が下がることはなかった。	健診申込みアンケートの回収率を上げるため、回収方法を検討したり回収を兼ねた訪問勧奨を積極的に行う。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保していた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 若者健診				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	若年者健診受診率	受診率:20%	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:17.2% (受診者数:5人/対象者29人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発した。 5月、7月広報に掲載 健診前日から村内放送を実施した。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率:50% ②受診率:20%	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率:36%(全体) 世帯単位で申込みアンケートを作成しているため、若者単位での回収率は求めている。 ②受診率:17.2%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保していた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 未受診者対策受診勧奨				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率:52%	平成31年度法定報告	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4% ・40～74歳 (受診者数135人/268人) ・40～59歳 (受診者数21人/56人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する。
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診勧奨者数 各地区で勧奨できたか	各地区で受診勧奨を実施	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員による、受診勧奨者数:48人 21地区で勧奨することができた。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率:52%	平成31年度法定報告	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか 健康づくり婦人会との連携はできたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算や人員は概ね確保していた。 打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き、綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 ハイリスク保健指導				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の施策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (ハイリスク対象者/健診受診者)	医療機関受診率: 70% (H29年度: 61.4%) (医療機関受診者: 86人/健診受診者140人)	受診状況の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者: 60.1% (医療機関受診者: 83人/健診受診者138人) 目標は達成できなかった。	医療機関に繋がるよう 奨励方法を検討する。
アウトプット	どれだけの人に医療機関へ紹介の案内を送ったか	同左	紹介状返却率: 100%(紹介状返却数／医療機関へ紹介の案内をした人数)	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	返却率: 40%(2件／5件)	返却率100%になるように、送付者へ電話等行う。
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診後、早期に対象者へ紹介状を送付することができた。	引き続き、対象者が医療機関の受診に繋がるよう早期に紹介状を送付する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた。	引き続き、綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 個別保健指導				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率:40%	令和元年度法廷報告	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:26.1% ・積極的支援(対象者7人) 利用者:1人 終了者:2人 ・動機付け支援(対象者15人) 利用者:5人 終了者:1人	勧奨の方法を見直し、参加者増に務める。 対象者が固定化されているため、利用しない人への個別勧奨も検討する。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	勧奨者割合(勧奨した人数/対象者)	勧奨実施率:100%	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨率:91%(21人) (21人/23人) 21人に電話勧奨を行った。	効果的な勧奨方法を引き続き検討していく。 勧奨時に、保健指導の必要性を説明する。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診結果が分かり次第、早々に勧奨を開始した。 保健指導を利用しない人の原因を分析する必要がある	実施に繋がる勧奨方法の検討をする。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた	事業継続 終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っていく。

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健康教室				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価段階	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	対象者の健診結果の数値変化	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	前年度より、メタボリックシンドローム該当者を2%減 (H29年度 男性:28.8% 女性:8.1%)	健診情報の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:33.3% 女性:12.1% 男女共に目標は達成できなかったが、背景には受信率向上の取り組みを強化した結果、健康意識の低い層が受診したことが要因と考える。	健診受診者が健康教室参加に繋がり、日頃から運動に取り組めるよう事業を見直していく。
アウトプット	健康運動教室等に参加したか	国保加入者の参加人数	1回あたりの参加人数:10人	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数:6人 国保加入者の参加が少なかった。	自宅で簡単にできる運動を実践するなど、参加者増加に努める。
プロセス	健康運動教室等の事業内容、場所、時期は適切だったか	健康運動教室等の、事業内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に開催できたか	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	運動教室 8回開催 運動教室参加者からは、「次年度も続けてほしい。」という声もあり好評だった。 栄養教室 3回開催 調理や味付けに課題が残った。	運動教室は、事業を継続し、引き続き参加者増に向けて、内容検討していく。 栄養教室は、事業含め内容を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた。	事業継続 委託業者との連携を強化する。

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健康チャレンジ				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康活動に取り組んだか	(健診問診の)週2回1回30分以上の運動週間がない人の割合減少	男女共に50%未満 (H29年度 男性:59.1% 女性:71.2%)	健診情報の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:72.2% 女性:67.7% 女性は減少したが、全体的に目標には到達していない。	参加者増加に向けて内容を検討する。
アウトプット	どれだけの人が健康チャレンジに取り組んだか	参加人数	参加実人数:50人	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数:43人(延べ307人) 20～80歳代と幅広い年代で取り組まれた。 集いの場へ伺い、健康チャレンジの紹介を行うことが出来た。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	取組者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、「健康意識が高まった」など、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業を実施するための予算は確保できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 食生活改善推進事業				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が食生活を見直すことができたか	週3回以上就寝前に夕食を取る人の減少	男女共に20%未満 (H29年度 男性:33.3% 女性:20.5%)	健診情報の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:27.8% 女性:10.8% 男女ともに、前年度に比べ減少しているが、男性は目標達成に至っていない。	目標達成に向けて、引き続き事業を実施する。
アウトプット	村民向けの食生活改善事業をどれくらい取り組んだか	実施回数	15回	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	開催回数:15回 食生活の大切さを事業実施のたびに啓発できた。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	実施者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた。 関係機関とは、概ね連携できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

平成30年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健診結果説明会				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価段階	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけの人が健康意識が高まったか	特定健診問診票の改善意欲なしの減少率 (H29年度 男性:51% 女性:32.9%)	男性:50% 女性:30%	健診情報の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:51.4% 女性:27.7% 目標に到達していないが、改善に向かっている。	アンケート結果を基に参加しやすい結果説明会開催を検討していく。
アウトプット	どれだけの人が、結果説明会に参加したか	結果説明会参加率 (参加者／集団健診特定健診を受診した人)	参加割合:20%	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加割合:22% (参加者:22人／健診受診者:97人)	目標参加率の見直し
プロセス	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	参加者に聞き取り調査	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加者からは、「よく分かった」「自分の健康について考えるきっかけとなった」等好評だった。	多くの方が参加できるよう周知方法を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	実施するための予算が確保できている 委託業者との連携が取れる	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	実施するための予算は確保できた。 委託業者との連携は、概ね連携できた。	引き続き、委託業者と綿密な打合せを行い、事業を実施していく。

平成30年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診勧奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	1. 40～74歳の特定健診未受診者の減少 (目標受診率:52%)	40～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・健診申込みアンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話勧奨・個別訪問（健康づくり婦人会・保健福祉推進員） ・職員による声掛け・個別受診の電話勧奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員	平成30年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若年者健診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	2. 若年者への健診を誘導し、受診を促す (目標受診率:20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	平成30年度	村民会館	若年者健診受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	1. 40～74歳の特定健診未受診者の減少 (目標受診率:52%)	40～74歳の特定健診未受診者	受診勧奨	・集団健診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診勧奨 ・職員による声掛け ・個別受診の電話勧奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	平成30年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率の向上 (目標受診率:80%)	特定健診受診者のうち要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診勧奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果 確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療 機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	平成30年度	被保険者宅 役場	要医療者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善 (目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話勧奨を行い利用勧奨する。	保健師 住民課 委託業者	平成30年度	保健センター 及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	20～50歳代を中心とした人々の生活習慣改善の機会となる。(メニュー、業者)	村民	健康教室	健康教室運動教室自分のできる健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	平成30年度	保健センター 地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健康チャレンジ事業	健康活動のきっかけ作り	多くの人が健康チャレンジに取り組む	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康パスポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	平成30年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	食生活改善活動に参加することで健康意識の向上を目指す	村民	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助（健診時等に国保連よりレンタル）	食生活改善推進委員	平成30年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	多くの人が健診結果説明会に参加することで、健康への意識を高め、行動に繋げる (目標参加率:20%)	特定健診受診者 人間ドック、その他健診受診者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康パスポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	平成30年度	保健センター又は村民会館	健診結果説明会参加率

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 受診勧奨				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率:53%	令和元年度法定報告	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4% ・40～74歳 (受診者数135人/268人) ・40～59歳 (受診者数21人/56人) 目標は達成できなかった。	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する。
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行なったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	①訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員:95人 健康づくり婦人会:延べ332人 健診申込みアンケート提出の有無に 関係なく、PRも兼ねて啓発した。 5月、7月広報に掲載 健診前日から村内放送を実施した。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率:50% ②受診率:53%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率:70% (提出者199人/受診対象者数286人) ②受診率:50.4% 保健福祉推進員を中心に勧奨したこと、回収率も上がった。	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保していた ②打合せ等スムーズに行うことができた、連携体制は十分だった	打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 未受診者対策（若者健診）				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	若年者健診受診率	受診率:20%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:17.9% (受診者数:5人/対象者28人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する。
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	未提出者のうち、50%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診勧奨者率:43.8人 (訪問者/アンケート未提出対象者) 保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発した。 5月、7月広報に掲載 健診前日から村内放送を実施した。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率:50% ②受診率:20%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率:50% 世帯単位で申込みアンケートを作成しているため、若者単位での回収率は求めている。 ②受診率:17.9%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法を検討する
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保していた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き、打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 未受診者対策受診勧奨				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価対象	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率:53%	令和元年度法定報告	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4% ・40～74歳 (受診者数135人/268人) ・40～59歳 (受診者数21人/56人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する。
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診勧奨者数 各地区で勧奨できたか	①対象者のうち:100人 ②各地区で受診勧奨を実施	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員による、受診勧奨者数:50人 21地区で勧奨することができた。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率:53%	令和元年度法定報告	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4% 未受診者に聞き取りすると、通院中や多忙等の理由により、受診に繋がっていないケースが多かった。	未受診者に対して、健診の必要性や、健診を受けてくれそうな効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか 健康づくり婦人会との連携はできたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算や人員は概ね確保していた。 打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き、打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 ハイリスク保健指導				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価段階	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (ハイリスク対象者/健診受診者)	医療機関受診率:70% (H30年度:60.1%) (医療機関受診者:83人/健診受診者138人)	受診状況の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者:54.1% (医療機関受診者:73人/健診受診者135人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	勧奨実施率:100%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	実施率:100%	事業継続
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	—	作成方法等を検討する
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	事業検討

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 個別保健指導				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率:40%	令和元年度法廷報告	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:38.9%	勧奨の方法を見直し、参加者増に務める。 対象者が固定化されてきているため、利用しない人への個別勧奨も検討する。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	勧奨者割合(勧奨した人数/対象者)	勧奨実施率:100%	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨率:77%(214人) (14人/18人) 13人に電話勧奨 1人訪問・郵送勧奨	効果的な勧奨方法を引き続き検討していく。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診結果が分かり次第、早々に勧奨を開始した。 保健指導を利用しない人の原因を分析する必要がある。	実施に繋がる勧奨方法の検討。 次年度は、健診勧奨で保健指導の勧奨を実施する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた。	終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っていく。

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健康教室				
評価の 枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価 時期	評価 体制	評価結果	今後の策
アウトカム	対象者の健診結果の数値変化	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	前年度より、メタボリックシンドローム該当者を2%減 (H30年度 男性:33.3% 女性:12.1%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:41.2% 女性:29.2% 前年度に引き続き、男女共に目標は達成できなかったが、背景には受信率向上の取り組みを強化した結果、健康意識の低い層が受診したことが要因と考える。	健診受診者が健康教室参加に繋がり、日頃から運動に取り組めるよう事業を見直していく。
アウトプット	健康運動教室等に参加したか	国保加入者の参加人数	1回あたりの参加人数:10人	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数:3.5人 国保加入者の参加が少なかった。	参加者増加に向けて、事業内容を検討する
プロセス	健康運動教室等の事業内容、場所、時期は適切だったか	健康運動教室等の、事業内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に開催できたか	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・運動教室を22回開催 ・参加者からは、「次年度も続けてほしい。」という声もあり好評だった。 ・アンケートの中に、運動を取り組み始めた人の割合が57%だった。	運動教室は、事業を継続し、引き続き参加者増に向けて、内容検討していく。 栄養教室は、事業含め内容検討
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた。 委託業者とは、概ね連携できた。	委託業者との連携を強化する

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健康チャレンジ				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康活動に取り組んだか	(健診問診の)週2回1回30分以上の運動週間がない人の割合減少	男女共に50%未満 (H30年度 男性:72.2% 女性:67.7%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:77.9% 女性:76.9%	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	どれだけの人々が健康チャレンジに取り組んだか	参加人数	参加実人数:50人	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数:35人(延べ195人)	事業継続 参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	取組者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。 健康まつりや文化祭等で、健康チャレンジを取り組みなどを紹介できた。	事業継続 幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業を実施するための予算は確保できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 食生活改善推進事業				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけの人が食生活を見直すことができたか	週3回以上就寝前に夕食を取る人の減少	男女共に20%未満 (H30年度 男性:27.8% 女性:10.8%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:38.2% 女性:13.8% 男女共前年度より増加したが、受診率向上の取り組みを強化した結果、健康意識の低い層が受診したことが要因と考える	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	村民向けの食生活改善事業をどれくらい取り組んだか	実施回数	15回	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	開催回数:16回 食生活の大切さを事業実施のたびに啓発できた。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	実施者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた。 関係機関とは、概ね連携できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健診結果説明会				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけの人が健康意識が高まったか	特定健診問診票の改善意欲なしの減少率 (H30年度 男性:51% 女性:32.9%)	男性:50% 女性:30%	健診情報の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:41.2% 女性:29.2%	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化するとともに、健診の継続受診の必要性を伝えていく。
アウトプット	どれだけの人が、結果説明会に参加したか	結果説明会参加率 (集団健診特定健診を受診した人/参加者)	参加割合:20%	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加割合:16% (健診受診者:99人 参加者:16人)	参加者増加に向けて、啓発方法を検討する。
プロセス	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	参加者に聞き取り調査	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・参加者から好評だった ・昼夜開催することで、男性の参加も見られ、反応も良かった。 ・個別の声がけにより、若い世代の参加に繋がった。 ・健診結果に合わせ、運動教室を開催することで、運動教室への参加に繋がった。	参加者が固定化してきたため、多くの方が参加できるよう周知方法を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	実施するための予算が確保できている 委託業者との連携が取れる	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	実施するための予算は確保できた。 委託業者との連携は、概ね連携できた。	引き続き、委託業者と綿密な打合せを行い、事業を実施していく。

令和2年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診 動 奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	1. 40～74歳の 特定健診未受診 者の減少 (目標受診率: 54%)	40～74歳の 特定健診対象者	受診動奨	・健診申込みアンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話動奨・個別訪問（健康づくり婦人会・保健福祉推進員） ・職員による声掛け・個別受診の電話動奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和2年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若 年 者 健 診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	2. 若年者への健診を誘導し、受診を促す (目標受診率: 20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	令和2年度	村民会館	若年者健診受診率
未 受 診 者 対 策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	1. 40～74歳の 特定健診未受診 者の減少 (目標受診率: 54%)	40～74歳の 特定健診未受診者	受診動奨	・集団健診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診動奨 職員による声掛け ・個別受診の電話動奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和2年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハ イ リ ス ク 保 健 指 導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率の向上 (目標受診率: 80%)	特定健診受診者のうち要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイスルク保健指導	・健診結果要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診動奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果 確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療 機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	令和2年度	被保険者宅 役場	要医療者の医療機関受診率
個 別 保 健 指 導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善 (目標実施率: 40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話動奨を行い利用動奨する。	保健師 住民課 委託業者	令和2年度	保健センター 及び地区集会所	特定保健指導実施率
健 康 教 室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	20～50歳代を中心とした人々の生活習慣改善の機会となる。(メニュー、業者)	村民	健康教室	健康教室運動教室自分で行える健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	令和2年度	保健センター 地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健 康 チ ャ レ ン ジ 事 業	健康活動のきっかけ作り	多くの人が健康チャレンジに取り組む	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康パスポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	令和2年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加人数
食 生 活 改 善 推 進 事 業	食生活を見直す機会を設ける	食生活改善活動に参加することで健康意識の向上を目指す	村民	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助（健診時等に国保連よりレンタル）	食生活改善推進委員	令和2年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健 診 結 果 説 明 会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	多くの人が健診結果説明会に参加することで、健康への意識を高め、行動に繋げる (目標参加率: 20%)	特定健診受診者 人間ドック、その他 健診受診者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康パスポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	令和2年度	保健センター又は 村民会館	健診結果説明会参加率

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 受診勧奨				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率:54%	令和2年度法定報告	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	①訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率:50% ②受診率:54%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 未受診者対策（若者健診）				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価段階	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	若年者健診受診率	受診率:20%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	未提出者のうち、50%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
プロセス	受診勧奨の時期は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率:50% ②受診率:20%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 未受診者対策受診勧奨				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率:53%	令和元年度法定報告	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診勧奨者数 各地区で勧奨できたか	①対象者のうち:100人 ②各地区で受診勧奨を実施	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率:53%	令和元年度法定報告	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか 健康づくり婦人会との連携はできたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 ハイリスク保健指導				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価段階	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (ハイリスク対象者/健診受診者)	医療機関受診率:70% (H30年度:60.1%) (医療機関受診者:83人/健診受診者138人)	受診状況の確認・集計(KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	勧奨実施率:100%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 個別保健指導				
評価の 枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価 段階	評価 時期	評価 体制	評価結果	今後の 対策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率:40%	令和元年度法延報告	R03年	事業担当 (国保担当、保健 担当)		
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	勧奨者割合(勧奨した人数/対象 者)	勧奨実施率:100%	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健 担当)		
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、 場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容 、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健 担当)		
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制 は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保で きている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健 担当)		

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健康教室				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価時点	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	対象者の健診結果の数値変化	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	前年度より、メタボリックシンドローム該当者を2%減 (H30年度 男性:33.3% 女性:12.1%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
	健康運動教室等に参加したか	国保加入者の参加人数	1回あたりの参加人数:10人	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
	健康運動教室等の事業内容、場所、時期は適切だったか	健康運動教室等の、事業内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に開催できたか	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
アウトプット								
プロセス								
ストラクチャー								

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健康チャレンジ				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康活動に取り組んだか	(健診問診の)週2回1回30分以上の運動週間がない人の割合減少	男女共に50%未満 (H30年度 男性:72.2% 女性:67.7%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
アウトプット	どれだけの人が健康チャレンジに取り組んだか	参加人数	参加実人数:50人	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	取組者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 食生活改善推進事業				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価課	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が食生活を見直すことができたか	週3回以上就寝前に夕食を取る人の減少	男女共に20%未満 (H30年度 男性:27.8% 女性:10.8%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
アウトプット	村民向けの食生活改善事業をどれくらい取り組んだか	実施回数	15回	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	実施者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健診結果説明会				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康意識が高まったか	特定健診問診票の改善意欲なしの減少率 (H30年度 男性:51% 女性:32.9%)	男性:50% 女性:30%	健診情報の確認・集計(KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
アウトプット	どれだけの人が、結果説明会に参加したか	結果説明会参加率 (集団健診特定健診を受診した人/参加者)	参加割合:20%	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
プロセス	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	参加者に聞き取り調査	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	実施するための予算が確保できている 委託業者との連携が取れる	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)		

4. 経年評価指標

【医療情報】

① 医療費について

総医療費については、増減しつつも県・国よりも大幅に上回って推移している。

一人当たり医療費における伸び率を見ると、年度によって増減はあるが、増加傾向であり、医療費適正化への取組効果が得られていない。(図表1)

疾患別医療費分布では、男性の入院ではがん、脳梗塞、筋・骨格が顕著に増加し、外来でもがん、脳梗塞の増加が見られる。慢性腎不全(透析あり)は横ばいで推移している。基礎疾患である糖尿病や高血圧症は減少傾向にある。

女性の入院では、がん、筋・骨格、精神が高額となっており、中でも筋・骨格の伸び率が特に大きい。外来も入院同様に、がん、筋・骨格、精神が高額となっているが、その中でも、がんの伸び率が高くなっている。高血圧脂質異常症は、やや減少している。(図表2)

図表1

医療費分析の経年比較

(1) 総医療費

項目	総医療費【円】					
	全体		入院		入院外	
	費用額	増減	費用額	増減	費用額	増減
平成28年度	161,048,450		70,744,480		90,303,970	
平成29年度	158,244,610	-2,803,840	65,028,330	-5,716,150	93,216,280	2,912,310
平成30年度	181,574,120	23,329,510	91,915,940	26,887,610	89,658,180	-3,558,100
令和01年度	158,451,460	-23,122,660	71,831,010	-20,084,930	86,620,450	-3,037,730
令和02年度						
令和03年度						

表14) 医療費の変化

(2) 1人あたり医療費

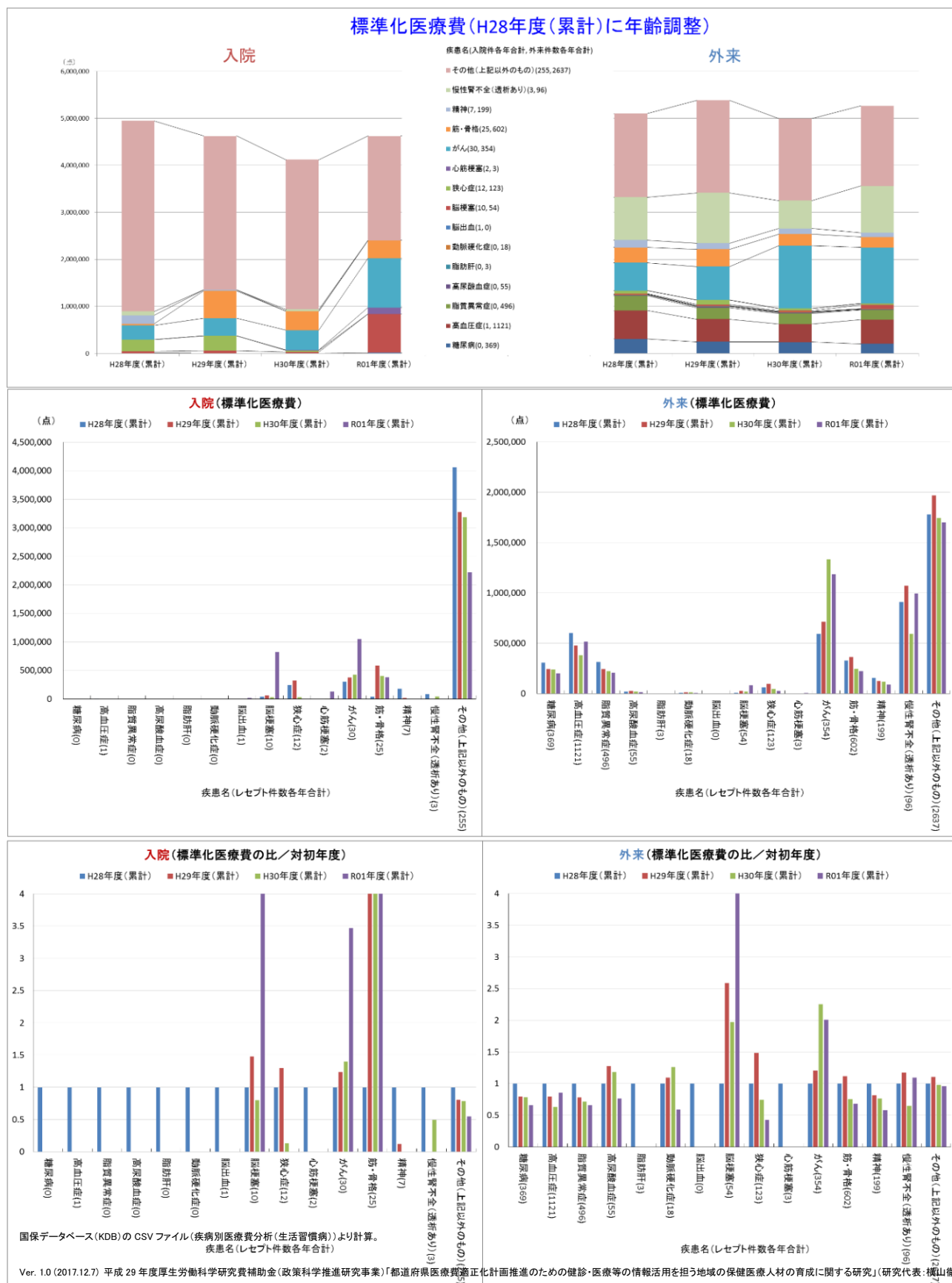
KDB帳票No1 令和2年11月16日抽出

項目		1人あたり医療費【円】※			伸び率(%)		
		全体	入院	入院外	全体	入院	入院外
H28年度	保険者【地区】	35,990	15,810	20,180			
	同規模	26,930	11,990	14,940			
	高知県	29,350	13,370	15,980			
	国	25,340	10,150	15,190			
H29年度	保険者【地区】	36,210	14,880	21,330	1%	-6%	6%
	同規模	27,800	12,370	15,430	3%	3%	3%
	高知県	30,450	14,020	16,430	4%	5%	3%
	国	26,210	10,560	15,650	3%	4%	3%
H30年度	保険者【地区】	44,070	22,310	21,760	22%	50%	2%
	同規模	28,310	12,990	15,320	2%	5%	-1%
	高知県	30,930	14,520	16,410	2%	4%	-0%
	国	26,560	10,870	15,690	1%	3%	0%
R01年度	保険者【地区】	39,970	18,120	21,850	-9%	-19%	0%
	同規模	29,090	13,300	15,790	3%	2%	3%
	高知県	31,620	14,670	16,950	2%	1%	3%
	国	27,470	11,220	16,250	3%	3%	4%
R02年度	保険者【地区】						
	同規模						
	高知県						
	国						
R03年度	保険者【地区】						
	同規模						
	高知県						
	国						

※1ヶ月医療費の年度内平均を表示

図表2

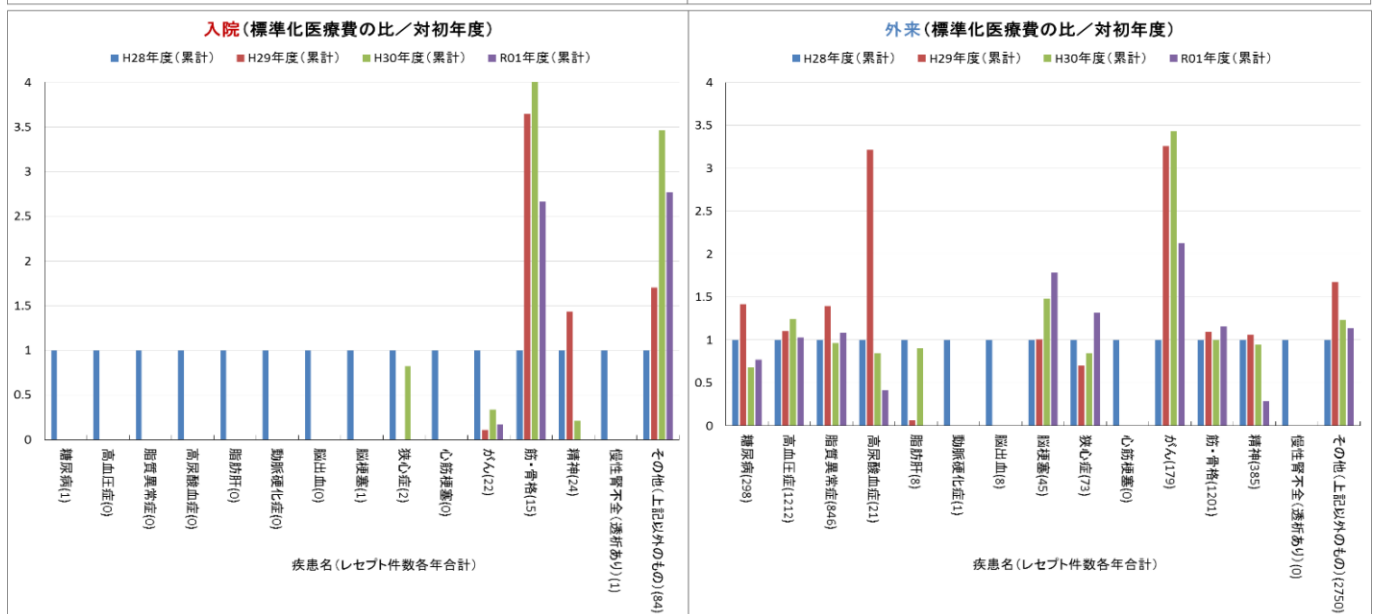
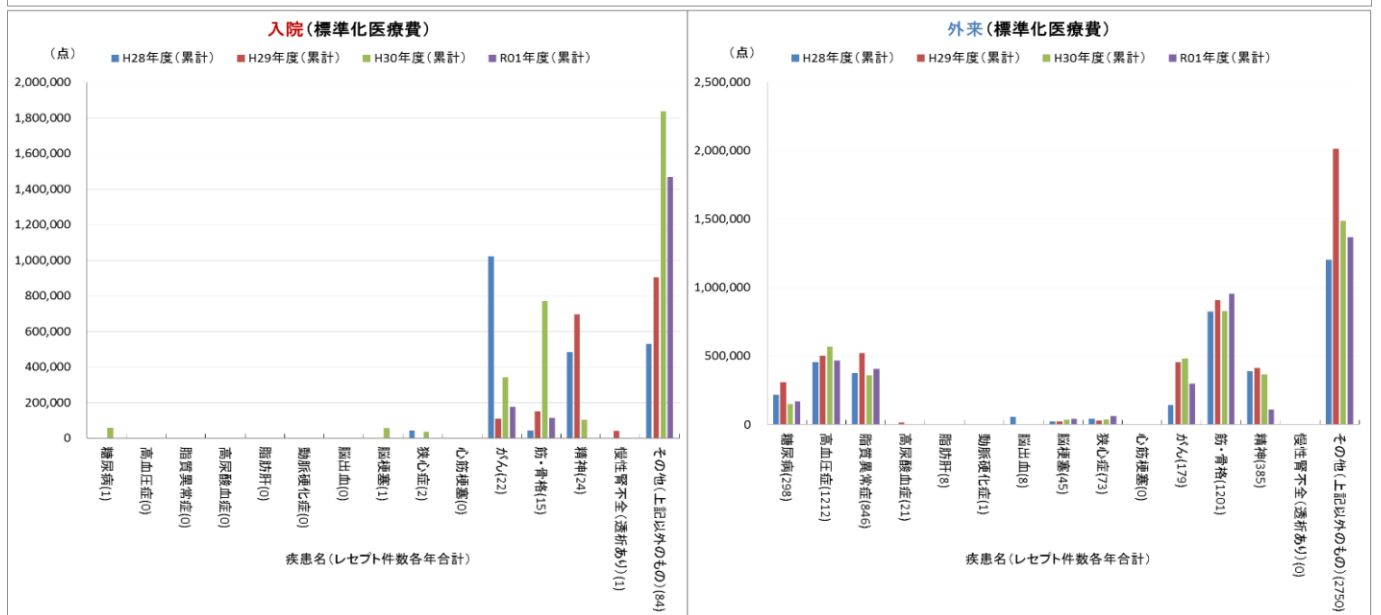
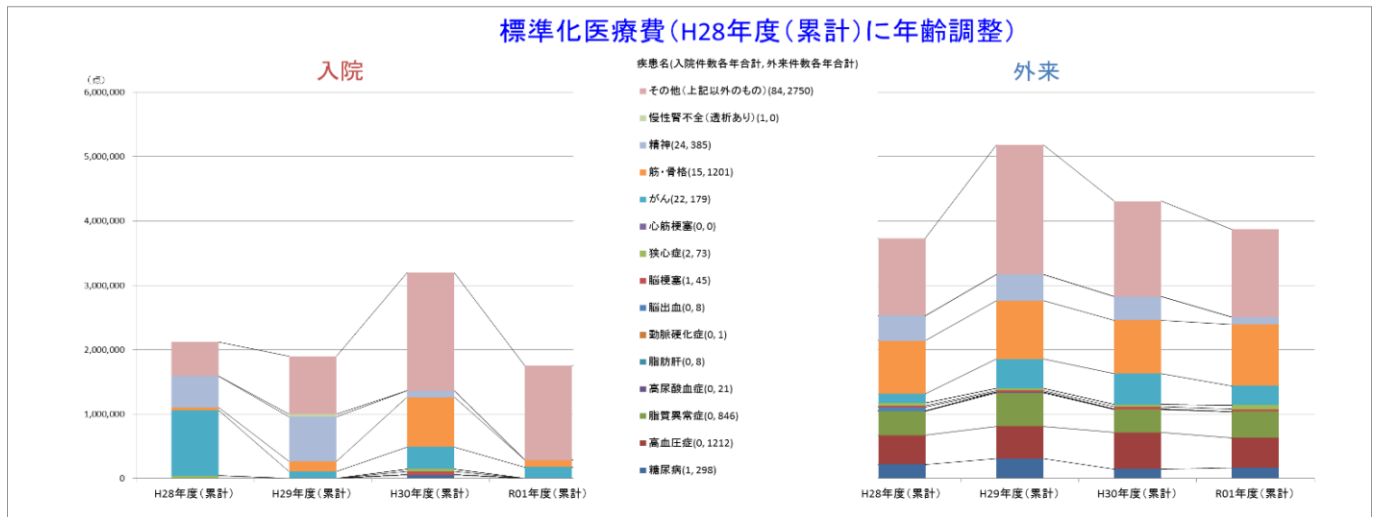
疾病別医療費分析(生活習慣病)
北川村 H28年度(累計)～R01年度(累計) 男性 0～74歳



疾病別医療費分析(生活習慣病)

北川村 H28年度(累計)～R01年度(累計) 女性 0～74歳

標準化医療費(H28年度(累計)に年齢調整)



国保データベース(KDB)のCSVファイル(疾病別医療費分析(生活習慣病))より計算。

Ver. 1.0 (2017.12.7) 平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)「都道府県医療費適正化計画推進のための健診・医療等の情報活用を担う地域の保健医療人材の育成に関する研究」(研究代表: 横山徹爾)

疾病別医療費分析(生活習慣病)

北川村 H28年度(累計)～R01年度(累計) 男性 0～74歳



国保データベース(KDB)のCSVファイル(疾病別医療費分析(生活習慣病))より計算。

Ver. 1.0 (2017.12.7) 平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)「都道府県医療費適正化計画推進のための健診・医療等の情報活用を担う地域の保健医療人材の育成に関する研究」(研究代表: 横山徹爾)

疾病別医療費分析(生活習慣病)

北川村 H28年度(累計)～R01年度(累計) 女性 0～74歳

医療費(年齢調整なし)



国保データベース(KDB)のCSVファイル(疾病別医療費分析(生活習慣病))より計算。

Ver. 1.0 (2017.12.7) 平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)「都道府県医療費適正化計画推進のための健診・医療等の情報活用を担う地域の保健医療人材の育成に関する研究」(研究代表: 横山徹爾)

②生活習慣病

虚血性心疾患数は概ね横ばいとなっているが、医療費は増えている。
狭心症以外の新規患者数は増えており、同規模被保険者と見比べると、全て高い割合となっている。
人口透析の患者数は微増しており、これに伴い合計金額は増加傾向にある。
基礎疾患としては、全ての疾患において患者数は減少しているが、新規患者数を同規模として比較すると脂質異常症と高尿酸血症で高くなっている。

表 2
【重症疾患】

	虚血性心疾患									
	新規患者数 ※1	増減	心筋梗塞				狭心症			
			患者数	増減	入院医療費(※2)	伸び率	患者数	増減	入院医療費(※2)	伸び率
H28年度	3.0		0		0		14.4		2,881,430	
H29年度	3.0	0.0	0.8	0.8	0		17.6	3.2	2,782,340	-3.4%
H30年度	1.0	-2.0	1.3	0.5	144,540		19.0	1.4	640,410	-77.0%
R1年度	1.0	0.0	1.2	-0.1	1,635,180	1031.3%	16.8	-2.2	0	-100.0%
R2年度										

	脳血管疾患													
	新規患者数 ※1	増減	脳梗塞						脳出血					
			新規患者数※1	増減	患者数	増減	入院医療費(※2)	伸び率	新規患者数※1	増減	患者数	増減	入院医療費(※2)	伸び率
H28年度	1.0		1.0		11.5		389,800			0.000	3.1		0	
H29年度	1.0	0.0	1.0	0.0	11.4	-0.1	1,233,980	216.6%	0.000	0.0	3.0	-0.1	0	
H30年度	2.0	1.0	2.0	1.0	13.4	2.0	1,345,400	9.0%	0.000	0.0	2.9	-0.1	0	
R1年度	3.0	1.0	2.0	0.0	13.1	-0.3	5,111,450	279.9%	1.000	1.0	2.7	-0.3	861,800	
R2年度														

※1：新規患者は費用額30万円以上のレセプトを新規とみなし患者数をカウントする
※2：入院医療費については最大医療資源傷病名をカウントする

人工透析を算定しているレセプト集計

	件数	患者数	新規患者数	糖尿病 有病者数	合計金額
H28年度	26	2 人	0 人	1 人	9,950,260 円
H29年度	25	3 人	0 人	0 人	9,800,020 円
H30年度	25	2 人	0 人	0 人	9,911,320 円
R1年度	24	2 人	0 人	0 人	9,590,950 円
R2年度					

図表 3
【基礎疾患】

表16) 疾病の発症状況と経年変化（2）
共通する基礎疾患（短期的な目標疾患）

疾患	糖尿病					高血圧					脂質異常症					高尿酸血症				
	患者数 (月平均)	増減	増減率	新規患者数 (被保険者千人当たり) (年度内合計)		患者数 (月平均)	増減	増減率	新規患者数 (被保険者千人当たり) (年度内合計)		患者数 (月平均)	増減	増減率	新規患者数 (被保険者千人当たり) (年度内合計)		患者数 (月平均)	増減	増減率	新規患者数 (被保険者千人当たり) (年度内合計)	
				保険者	同規模※				保険者	同規模※				保険者	同規模※				保険者	同規模※
平成28年	43			115.31	102.77	120			155.53	100.35	94			109.94	78.70	49			48.27	20.08
平成29年	42	-1	-2%	90.60	105.44	118	-2	-2%	120.80	101.48	93	-1	-1%	96.09	76.34	45	-4	-9%	38.44	20.28
平成30年	45	3	7%	90.29	108.70	116	-2	-2%	99.03	106.41	94	1	1%	78.64	83.38	47	2	4%	40.78	22.24
令和01年	42	-3	-6%	75.66	108.14	108	-8	-7%	102.90	106.61	89	-5	-6%	102.90	79.28	47	0	1%	78.69	21.79
令和02年																				
令和03年																				

年間集計

※同規模は直接法で保険者の性・年齢構成に調整している

【健診情報】

健診データでは、男性は、収縮期血圧とクレアチニン以外全ての項目で増加しており、どの項目においても、**65～74 歳**の割合が高くなっている。(図表 4)

県・国と比較すると、男性は特に **65～74 歳**の **BMI・腹囲**で高くなっており、男性全体を見ると、**ALT・コレステロール・尿酸**などで高くなっている。(図表 6)

女性は、空腹時血糖及び尿酸以外全ての項目で減少している。(図表 4)

また、県・国と比較すると **BMI・中性脂肪・HbA1c**、尿酸が高くなっている。(図表 7)

メタボ該当者は、男性は横ばい、女性は減少している。予備軍は男性は増加し、女性は減少している。(図表 5)

生活習慣の変化を見ると、喫煙・食習慣・運動習慣など、ほとんどの項目で悪化傾向にある。(図表 8)

特定健診の受診率の経年比較は横ばいとなっているが、特定保健指導の利用率はやや増加している。(図表 9～11)

図表 4
【有所見】

健診データのうち有所見者割合の高い項目や年代を把握する（厚生労働省様式6-2～6-7）KDB帳票No23 令和2年11月16日抽出

男性		BMI		腹囲		中性脂肪		GPT		HDL-C		空腹時血糖		HbA1c		尿酸		収縮期血圧		拡張期血圧		LDL-C		クレアチン	
		25以上		85以上		150以上		31以上		40未満		100以上		5.6以上		7.0以上		130以上		85以上		120以上		1.3以上	
		人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
H 2 8	合計	21	35.0	32	53.3	18	30.0	14	23.3	6	10.0	1	1.7	39	65.0	14	23.3	34	56.7	13	21.7	24	40.0	3	5.0
	40-64	5	27.8	8	44.4	6	33.3	5	27.8	0	0.0	0	0.0	12	66.7	2	11.1	6	33.3	5	27.8	6	33.3	0	0.0
	65-74	16	38.1	24	57.1	12	28.6	9	21.4	6	14.3	1	2.4	27	64.3	12	28.6	28	66.7	8	19.0	18	42.9	3	7.1
H 2 9	合計	22	33.3	36	54.5	16	24.2	13	19.7	9	13.6	0	0.0	45	68.2	14	21.2	37	56.1	23	34.8	19	28.8	4	6.1
	40-64	8	40.0	8	40.0	7	35.0	6	30.0	2	10.0	0	0.0	13	65.0	6	30.0	9	45.0	10	50.0	9	45.0	0	0.0
	65-74	14	30.4	28	60.9	9	19.6	7	15.2	7	15.2	0	0.0	32	69.6	8	17.4	28	60.9	13	28.3	10	21.7	4	8.7
H 3 0	合計	30	41.7	46	63.9	20	27.8	21	29.2	8	11.1	0	0.0	44	61.1	14	19.4	35	48.6	22	30.6	36	50.0	3	4.2
	40-64	12	50.0	13	54.2	9	37.5	11	45.8	3	12.5	0	0.0	12	50.0	5	20.8	9	37.5	9	37.5	15	62.5	0	0.0
	65-74	18	37.5	33	68.8	11	22.9	10	20.8	5	10.4	0	0.0	32	66.7	9	18.8	26	54.2	13	27.1	21	43.8	3	6.3
R 0 1	合計	22	32.4	38	55.9	21	30.9	19	27.9	8	11.8	0	0.0	46	67.6	15	22.1	32	47.1	18	26.5	35	51.5	2	2.9
	40-64	6	26.1	8	34.8	7	30.4	8	34.8	3	13.0	0	0.0	15	65.2	4	17.4	9	39.1	8	34.8	17	73.9	0	0.0
	65-74	16	35.6	30	66.7	14	31.1	11	24.4	5	11.1	0	0.0	31	68.9	11	24.4	23	51.1	10	22.2	18	40.0	2	4.4
R 0 2	合計																								
	40-64																								
	65-74																								
R 0 3	合計																								
	40-64																								
	65-74																								

女性		BMI		腹囲		中性脂肪		GPT		HDL-C		空腹時血糖		HbA1c		尿酸		収縮期血圧		拡張期血圧		LDL-C		クレアチン	
		25以上		85以上		150以上		31以上		40未満		100以上		5.6以上		7.0以上		130以上		85以上		120以上		1.3以上	
		人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
H 2 8	合計	22	28.2	12	15.4	21	26.9	9	11.5	3	3.8	1	1.3	56	71.8	1	1.3	44	56.4	15	19.2	45	57.7	2	2.6
	40-64	7	33.3	5	23.8	4	19.0	2	9.5	1	4.8	0	0.0	14	66.7	0	0.0	7	33.3	4	19.0	14	66.7	0	0.0
	65-74	15	26.3	7	12.3	17	29.8	7	12.3	2	3.5	1	1.8	42	73.7	1	1.8	37	64.9	11	19.3	31	54.4	2	3.5
H 2 9	合計	22	29.7	9	12.2	14	18.9	6	8.1	2	2.7	0	0.0	46	62.2	4	5.4	38	51.4	16	21.6	28	37.8	1	1.4
	40-64	5	25.0	3	15.0	3	15.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	55.0	2	10.0	7	35.0	4	20.0	7	35.0	0	0.0
	65-74	17	31.5	6	11.1	11	20.4	6	11.1	2	3.7	0	0.0	35	64.8	2	3.7	31	57.4	12	22.2	21	38.9	1	1.9
H 3 0	合計	22	33.3	12	18.2	18	27.3	5	7.6	0	0.0	0	0.0	43	65.2	0	0.0	28	42.4	8	12.1	33	50.0	2	3.0
	40-64	5	33.3	4	26.7	7	46.7	1	6.7	0	0.0	0	0.0	7	46.7	0	0.0	4	26.7	2	13.3	10	66.7	0	0.0
	65-74	17	33.3	8	15.7	11	21.6	4	7.8	0	0.0	0	0.0	36	70.6	0	0.0	24	47.1	6	11.8	23	45.1	2	3.9
R 0 1	合計	20	29.9	9	13.4	18	26.9	7	10.4	1	1.5	2	3.0	48	71.6	2	3.0	30	44.8	6	9.0	37	55.2	1	1.5
	40-64	5	33.3	3	20.0	3	20.0	2	13.3	0	0.0	0	0.0	9	60.0	1	6.7	4	26.7	2	13.3	11	73.3	0	0.0
	65-74	15	28.8	6	11.5	15	28.8	5	9.6	1	1.9	2	3.8	39	75.0	1	1.9	26	50.0	4	7.7	26	50.0	1	1.9
R 0 2	合計																								
	40-64																								
	65-74																								
R 0 3	合計																								
	40-64																								
	65-74																								

図表5
【メタボ】

メタボリックシンドローム該当者・予備群の把握（厚生労働省様式6-8）

KDB帳票No24 令和2年11月16日抽出

男性		健診受診者		腹囲のみ		予備群		高血糖		高血圧		脂質異常症		該当者		血糖＋血圧		血糖＋脂質		血圧＋脂質		3項目全て	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
H28	合計	60	40.0	4	6.7	8	13.3	0	0.0	5	8.3	3	5.0	20	33.3	2	3.3	2	3.3	7	11.7	9	15.0
	40-64	18	28.6	3	16.7	3	16.7	0	0.0	1	5.6	2	11.1	2	11.1	0	0.0	0	0.0	2	11.1	0	0.0
	65-74	42	48.3	1	2.4	5	11.9	0	0.0	4	9.5	1	2.4	18	42.9	2	4.8	2	4.8	5	11.9	9	21.4
H29	合計	66	45.2	3	4.5	14	21.2	0	0.0	11	16.7	3	4.5	19	28.8	0	0.0	5	7.6	5	7.6	9	13.6
	40-64	20	37.0	1	5.0	5	25.0	0	0.0	3	15.0	2	10.0	2	10.0	0	0.0	0	0.0	2	10.0	0	0.0
	65-74	46	50.0	2	4.3	9	19.6	0	0.0	8	17.4	1	2.2	17	37.0	0	0.0	5	10.9	3	6.5	9	19.6
H30	合計	72	49.7	5	6.9	17	23.6	1	1.4	11	15.3	5	6.9	24	33.3	4	5.6	2	2.8	9	12.5	9	12.5
	40-64	24	42.9	3	12.5	8	33.3	0	0.0	3	12.5	5	20.8	2	8.3	0	0.0	0	0.0	1	4.2	1	4.2
	65-74	48	53.9	2	4.2	9	18.8	1	2.1	8	16.7	0	0.0	22	45.8	4	8.3	2	4.2	8	16.7	8	16.7
R01	合計	68	47.2	3	4.4	14	20.6	0	0.0	11	16.2	3	4.4	21	30.9	4	5.9	2	2.9	10	14.7	5	7.4
	40-64	23	41.8	2	8.7	4	17.4	0	0.0	2	8.7	2	8.7	2	8.7	0	0.0	0	0.0	2	8.7	0	0.0
	65-74	45	50.6	1	2.2	10	22.2	0	0.0	9	20.0	1	2.2	19	42.2	4	8.9	2	4.4	8	17.8	5	11.1
R02	合計																						
	40-64																						
	65-74																						
R03	合計																						
	40-64																						
	65-74																						

女性		健診受診者		腹囲のみ		予備群		高血糖		高血圧		脂質異常症		該当者		血糖＋血圧		血糖＋脂質		血圧＋脂質		3項目全て	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
H28	合計	78	55.3	0	0.0	6	7.7	1	1.3	4	5.1	1	1.3	6	7.7	2	2.6	1	1.3	1	1.3	2	2.6
	40-64	21	43.8	0	0.0	4	19.0	1	4.8	2	9.5	1	4.8	1	4.8	0	0.0	1	4.8	0	0.0	0	0.0
	65-74	57	61.3	0	0.0	2	3.5	0	0.0	2	3.5	0	0.0	5	8.8	2	3.5	0	0.0	1	1.8	2	3.5
H29	合計	74	56.1	1	1.4	2	2.7	0	0.0	2	2.7	0	0.0	6	8.1	2	2.7	1	1.4	1	1.4	2	2.7
	40-64	20	45.5	1	5.0	1	5.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0
	65-74	54	61.4	0	0.0	1	1.9	0	0.0	1	1.9	0	0.0	5	9.3	2	3.7	0	0.0	1	1.9	2	3.7
H30	合計	66	51.6	1	1.5	3	4.5	0	0.0	3	4.5	0	0.0	8	12.1	0	0.0	2	3.0	4	6.1	2	3.0
	40-64	15	37.5	0	0.0	1	6.7	0	0.0	1	6.7	0	0.0	3	20.0	0	0.0	2	13.3	1	6.7	0	0.0
	65-74	51	58.0	1	2.0	2	3.9	0	0.0	2	3.9	0	0.0	5	9.8	0	0.0	0	0.0	3	5.9	2	3.9
R01	合計	67	53.6	3	4.5	1	1.5	0	0.0	0	0.0	1	1.5	5	7.5	1	1.5	1	1.5	2	3.0	1	1.5
	40-64	15	40.5	2	13.3	1	6.7	0	0.0	0	0.0	1	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	65-74	52	59.1	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	9.6	1	1.9	1	1.9	2	3.8	1	1.9
R02	合計																						
	40-64																						
	65-74																						
R03	合計																						
	40-64																						
	65-74																						

図表 6

厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年齢調整)の経年推移【男性】

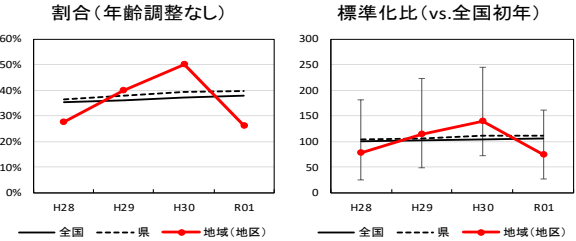
健診受診者数		H28	H29	H30	R01
40-64歳	全国	979147	936531	904925	872718
	県	6994	6599	6564	6299
	地域(地区)	18	20	24	23
65-74歳	全国	2154913	2181981	2160522	2122422
	県	13849	14104	14504	14170
	地域(地区)	42	46	48	45
総数	全国	3134060	3118512	3065447	2995140
	県	20843	20703	21068	20469
	地域(地区)	60	66	72	68

作成日: 2020/11/18
保険者番号: 390245
保険者名: 北川村
地区:

国保データベース(KDB)のCSVファイル(厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年代別))より計算。
標準化比は全国(初年度)を基準とした間接法による。誤差線は95%信頼区間。
Ver. 1.2 (2019.12.20) 平成26年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 健診・医療・介護等データベースの活用による地区診断と保健事業の立案を含む生活習慣病対策事業を担う地域保健人材の育成に関する研究(H25-循環器等(生習)-一般-014) (研究代表: 横山徹爾)

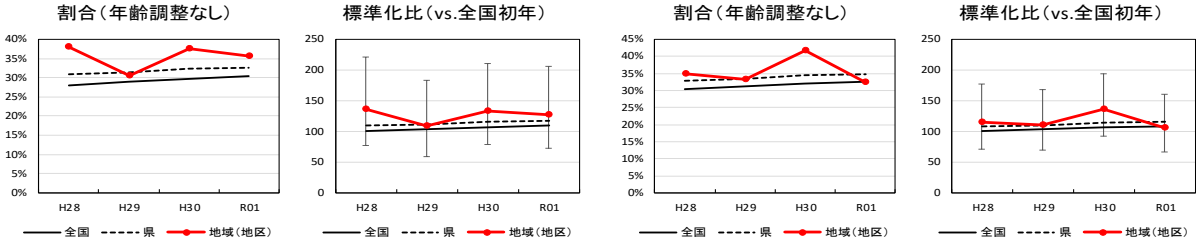
BMI25以上

40-64歳

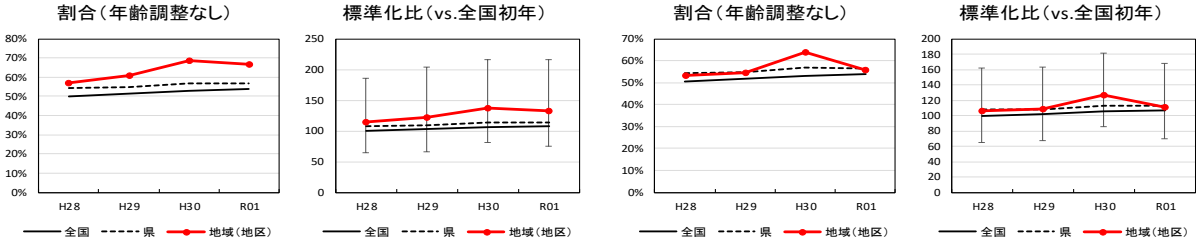
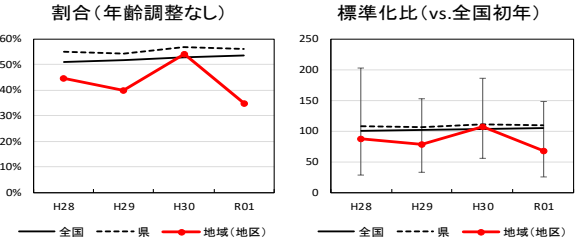


65-74歳

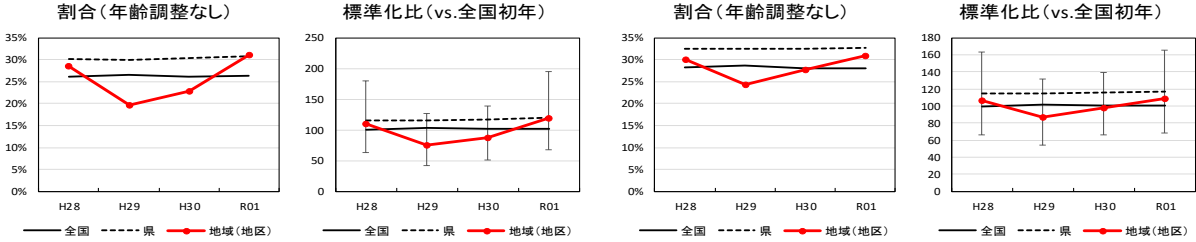
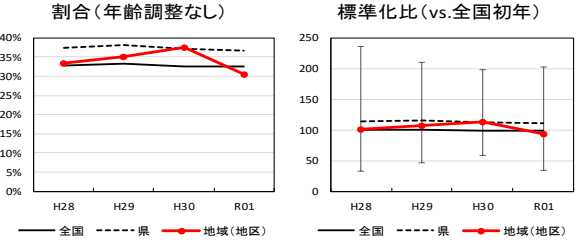
総数



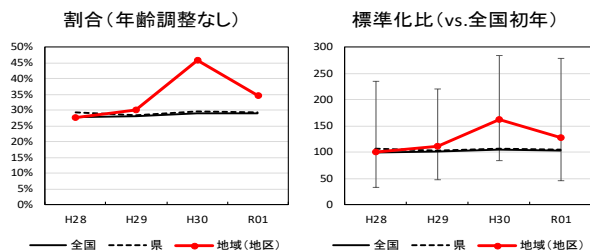
腹囲85以上



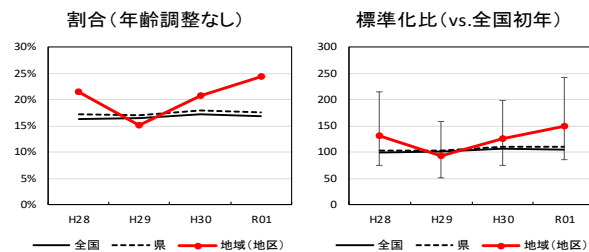
中性脂肪150以上



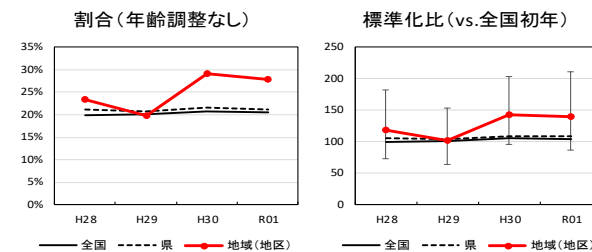
ALT(GPT)31以上 40-64歳



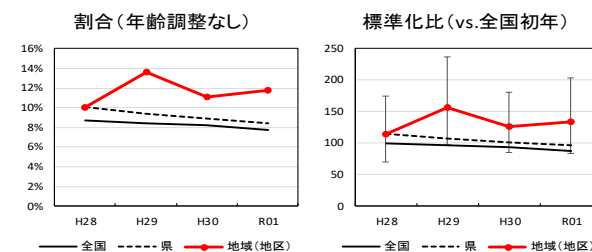
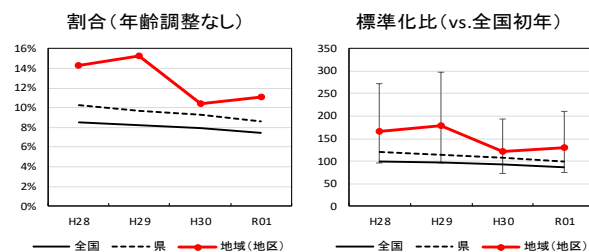
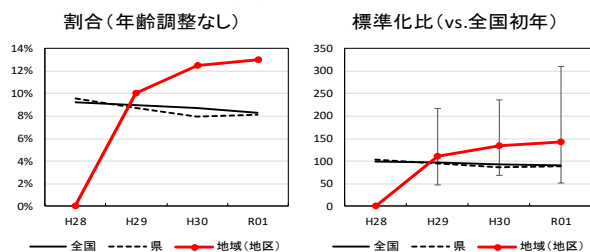
65-74歳



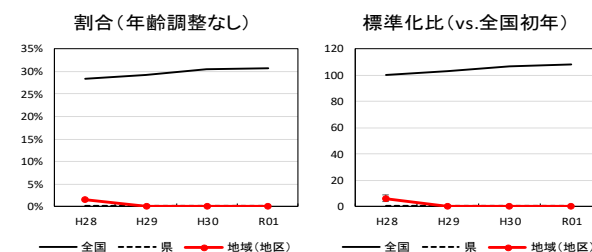
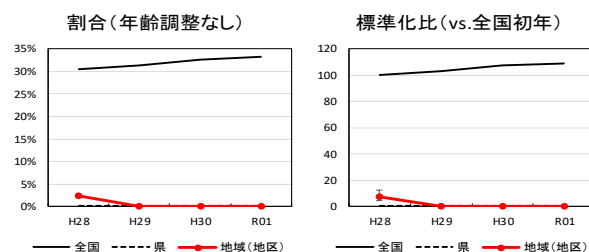
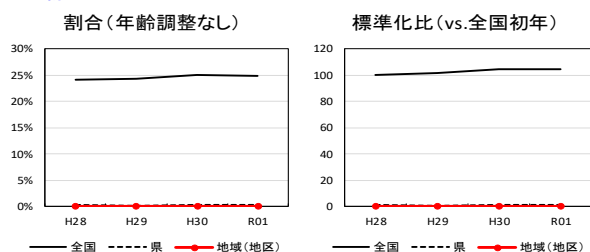
総数



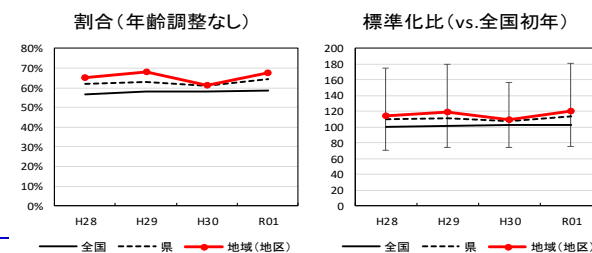
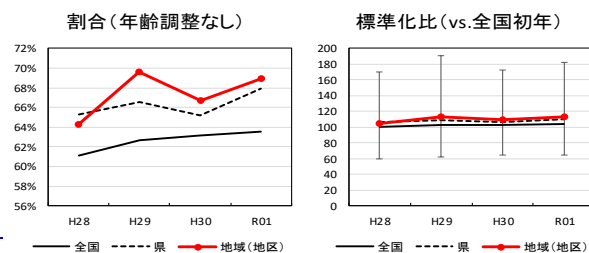
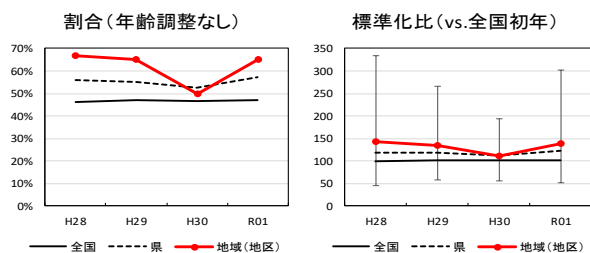
HDLコレステロール40未満



血糖100以上



HbA1c5.6以上

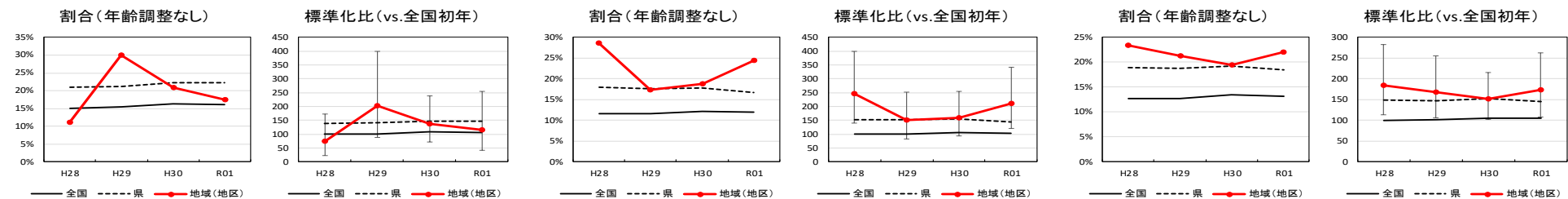


尿酸7.0以上

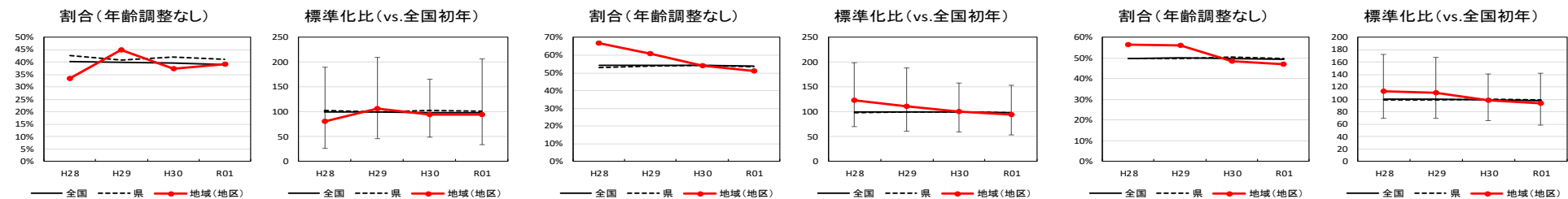
40-64歳

65-74歳

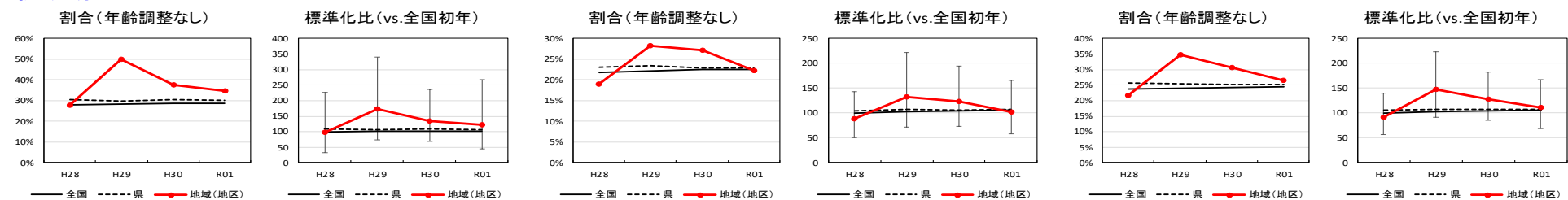
総数



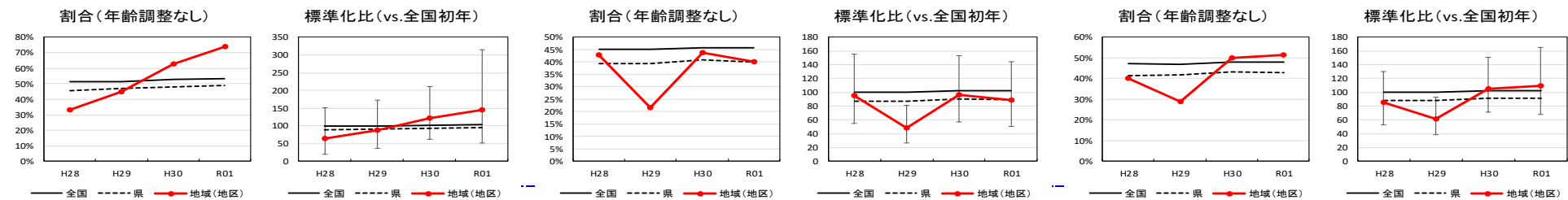
収縮期血圧130以上



拡張期血圧85以上



LDLコレステロール120以上



図表7

厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年齢調整)の経年推移【女性】

健診受診者数		H28	H29	H30	R01
40-64歳	全国	1366623	1294708	1233141	1159913
	県	8547	7872	7675	7013
	地域(地区)	21	20	15	15
65-74歳	全国	2897899	2932440	2906926	2852176
	県	18825	18844	19321	18526
	地域(地区)	57	54	51	52
総数	全国	4264522	4227148	4140067	4012089
	県	27372	26716	26996	25539
	地域(地区)	78	74	66	67

作成日: 2020/11/18
保険者番号: 390245
保険者名: 北川村
地区:

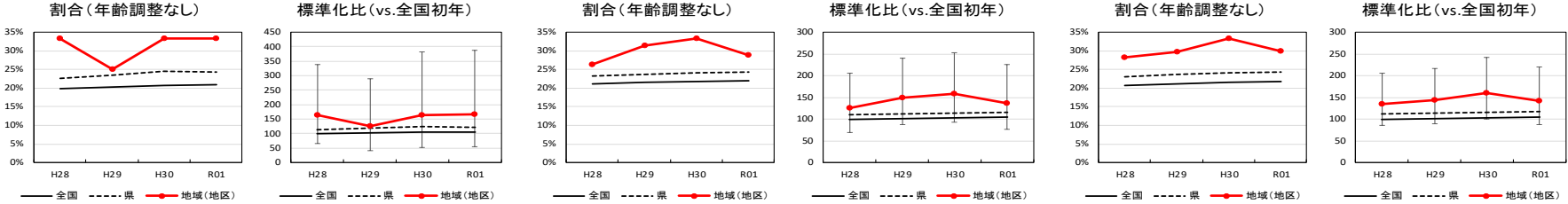
国保データベース(KDB)のCSVファイル(厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年代別))より計算。
標準化比は全国(初年度)を基準とした間接法による。誤差線は95%信頼区間。

BMI25以上

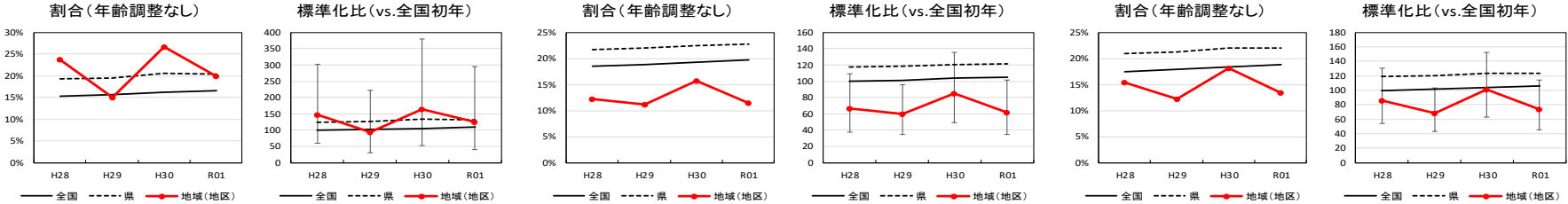
40-64歳

65-74歳

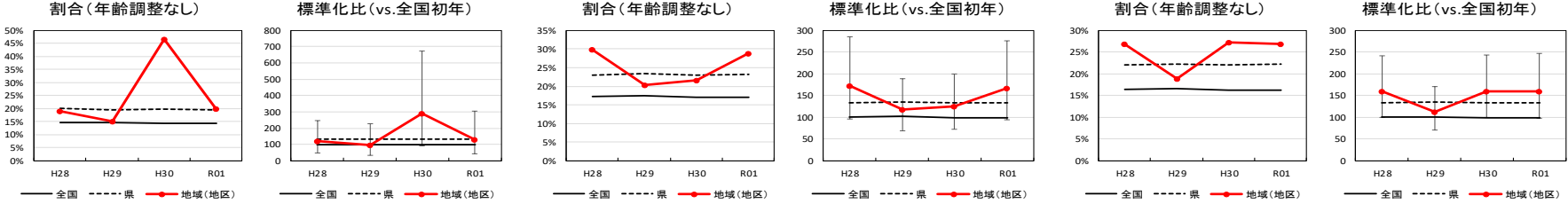
総数



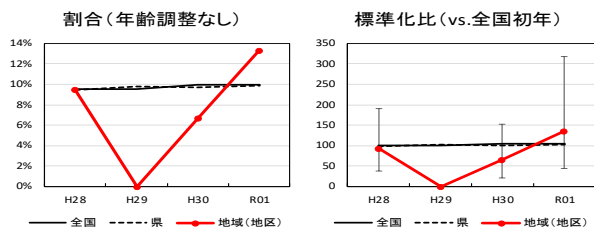
腹囲90以上



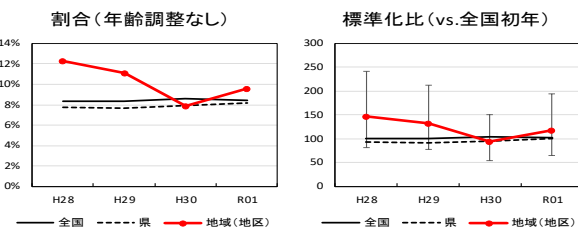
中性脂肪150以上



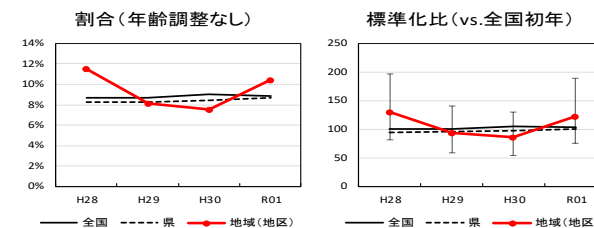
ALT(GPT)31以上 40-64歳



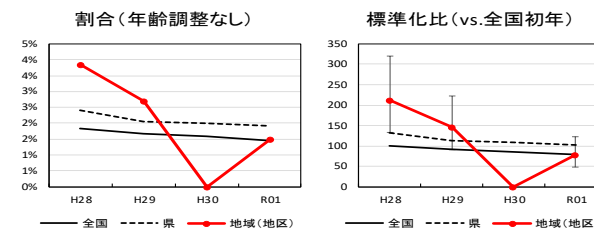
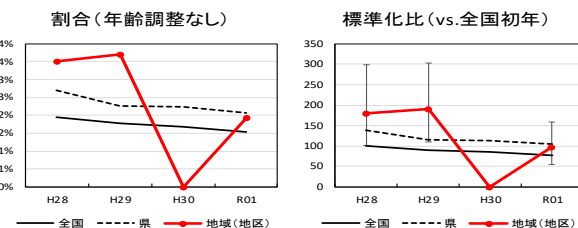
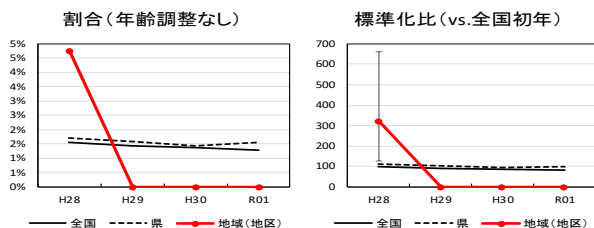
65-74歳



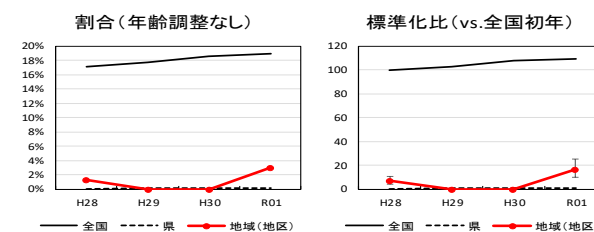
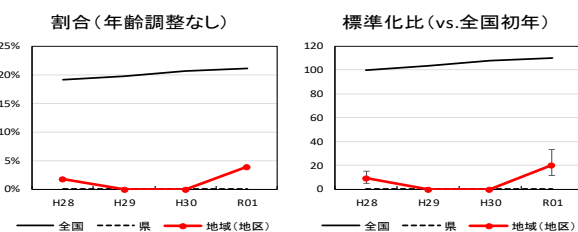
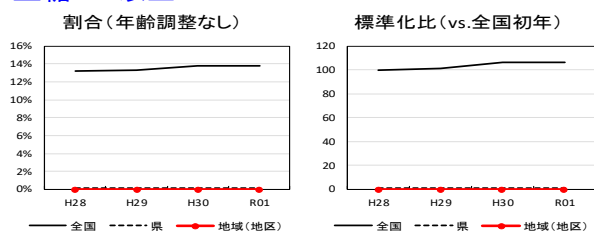
総数



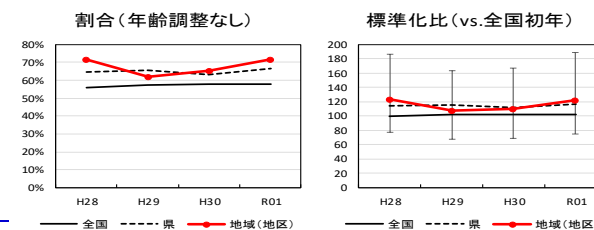
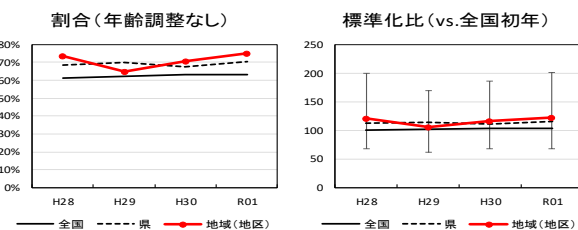
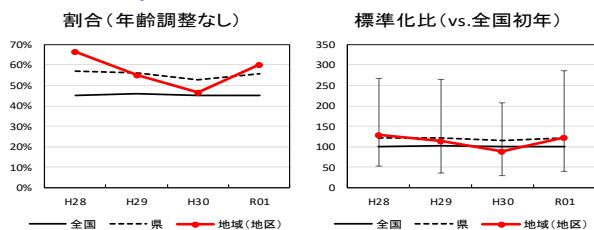
HDLコレステロール40未満



血糖100以上



HbA1c5.6以上

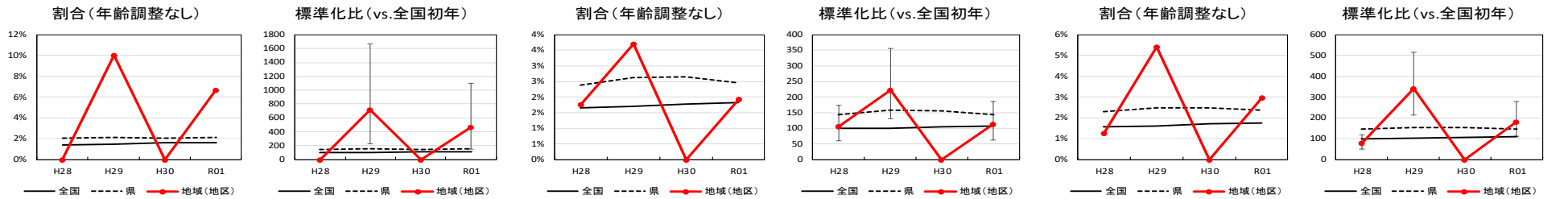


尿酸7.0以上

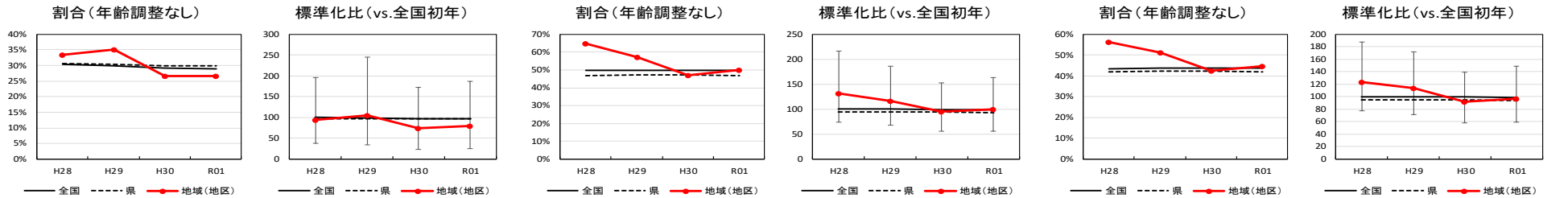
40-64歳

65-74歳

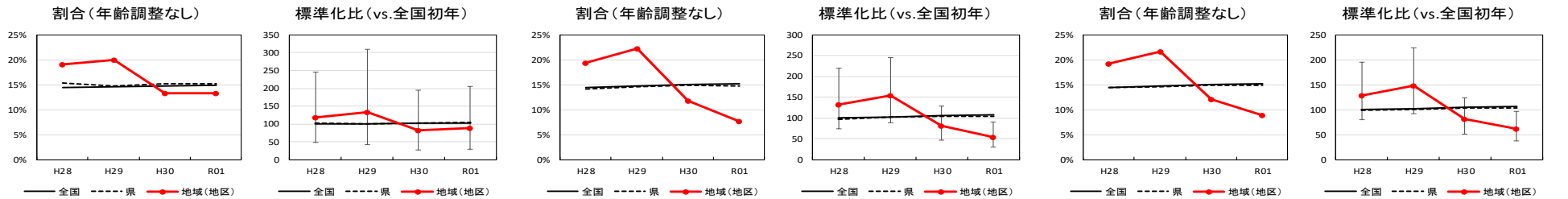
総数



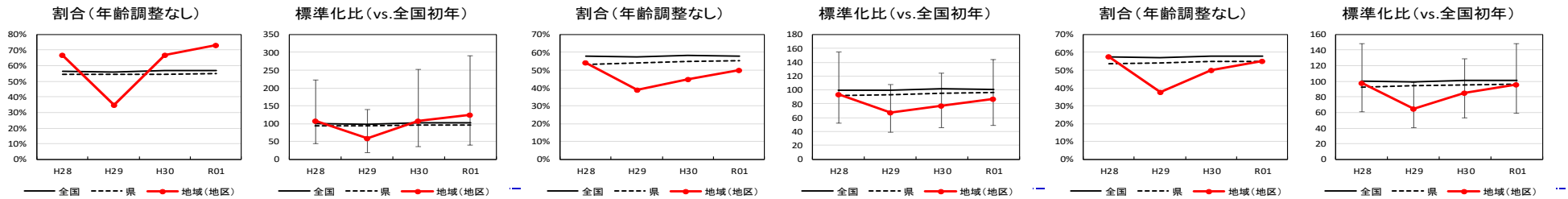
収縮期血圧130以上



拡張期血圧85以上



LDLコレステロール120以上



図表 8

【質問票】

KDB帳票№1 令和2年11月16日抽出																		
項目	①			②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬		⑭	
	服薬			喫煙	週3回以上朝食を抜く	週3回以上夕食後間食	週3回以上就寝前夕食	食べる速度が遅い	20歳時体重から10kg体重増加	1日30分以上運動なし	1日1時間以上運動なし	睡眠不足	毎日飲酒	時々飲酒	咀嚼		間食	
	高血圧症	糖尿病	脂質異常症												噛みにくい	ほとんど噛めない	毎日	時々
平成28年	42.8%	8.7%	28.3%	15.9%	6.7%	17.8%	22.2%	25.9%	36.3%	63.7%	47.4%	23.7%	25.9%	20.7%				
平成29年	44.3%	10.0%	23.6%	19.3%	14.4%	20.9%	26.6%	23.0%	36.7%	65.5%	51.8%	23.7%	30.9%	20.1%				
平成30年	44.2%	7.2%	28.3%	18.1%	10.2%	-	19.7%	25.5%	43.1%	70.1%	42.3%	27.0%	32.1%	15.3%	32.8%	2.9%	21.9%	53.3%
令和01年	44.4%	9.6%	26.7%	21.5%	10.5%	-	26.3%	24.1%	39.1%	77.4%	46.6%	28.6%	29.3%	15.0%	32.3%	0.8%	21.8%	47.4%
令和02年																		
令和03年																		

補足

平成 30 年特定健康診査制度改正により「④週 3 回以上夕食後間食」は削除項目になっている。新たに「⑬咀嚼」「⑭間食」が追加された項目である。

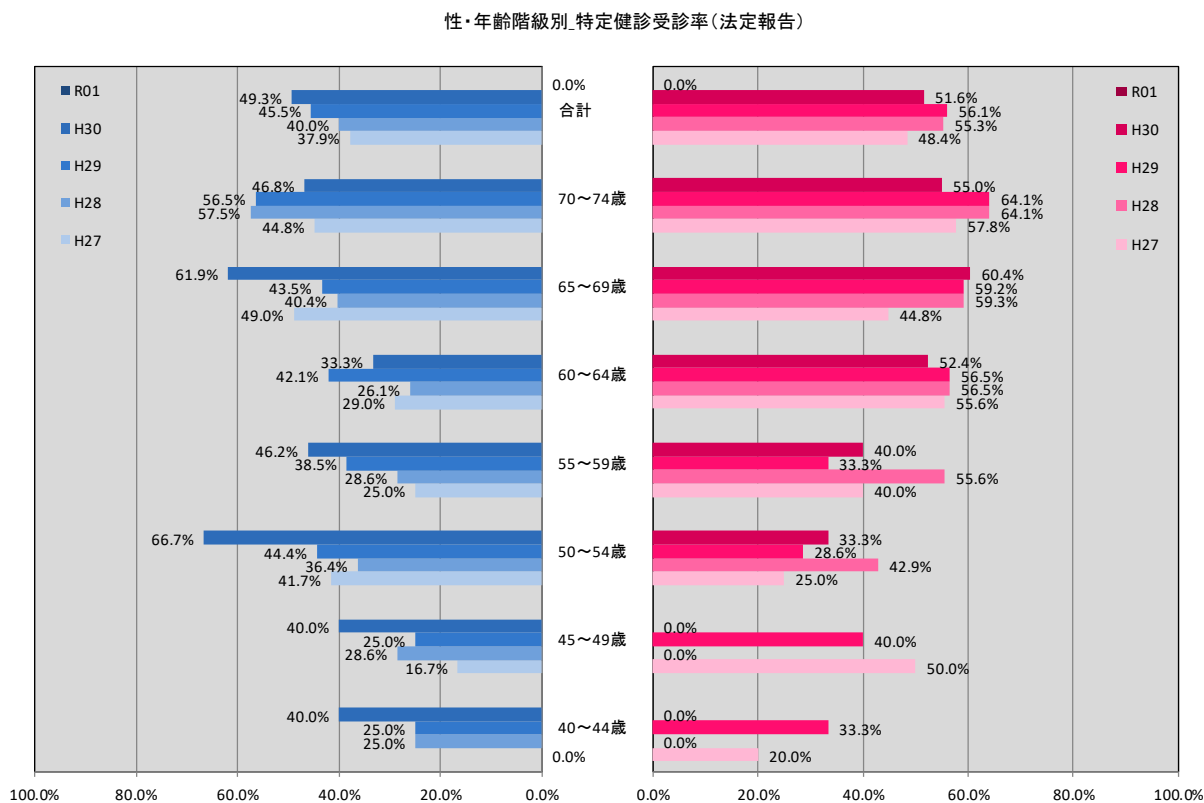
図表 9

【健診_法定報告】

男	H27			H28			H29			H30			R01		
	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率
40～44歳	6	0	0.0%	8	2	25.0%	8	2	25.0%	10	4	40.0%			
45～49歳	6	1	16.7%	7	2	28.6%	4	1	25.0%	5	2	40.0%			
50～54歳	12	5	41.7%	11	4	36.4%	9	4	44.4%	6	4	66.7%			
55～59歳	12	3	25.0%	14	4	28.6%	13	5	38.5%	13	6	46.2%			
60～64歳	31	9	29.0%	23	6	26.1%	19	8	42.1%	21	7	33.3%			
65～69歳	49	24	49.0%	47	19	40.4%	46	20	43.5%	42	26	61.9%			
70～74歳	29	13	44.8%	40	23	57.5%	46	26	56.5%	47	22	46.8%			
合計	145	55	37.9%	150	60	40.0%	145	66	45.5%	144	71	49.3%	0	0	#DIV/0!

女	H27			H28			H29			H30			R01		
	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率
40～44歳	5	1	20.0%	5	0	0.0%	3	1	33.3%	3	0	0.0%			
45～49歳	2	1	50.0%	4	0	0.0%	5	2	40.0%	5	0	0.0%			
50～54歳	8	2	25.0%	7	3	42.9%	7	2	28.6%	6	2	33.3%			
55～59歳	10	4	40.0%	9	5	55.6%	6	2	33.3%	5	2	40.0%			
60～64歳	27	15	55.6%	23	13	56.5%	23	13	56.5%	21	11	52.4%			
65～69歳	58	26	44.8%	54	32	59.3%	49	29	59.2%	48	29	60.4%			
70～74歳	45	26	57.8%	39	25	64.1%	39	25	64.1%	40	22	55.0%			
合計	155	75	48.4%	141	78	55.3%	132	74	56.1%	128	66	51.6%	0	0	#DIV/0!

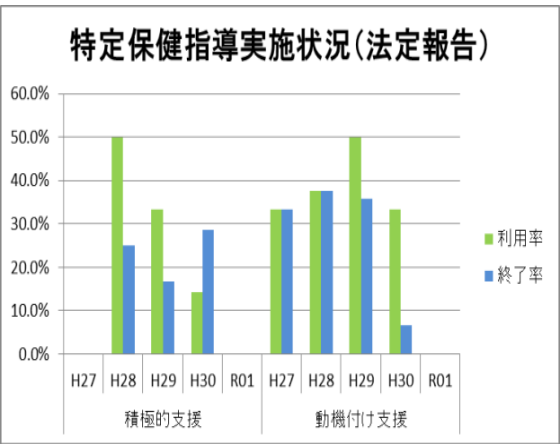
図表 1 0



図表 1 1

特定保健指導実施状況(法定報告)

		対象者	利用者	終了者	利用率	終了率
積極的支援	H27	3	0	0	0.0%	0.0%
	H28	4	2	1	50.0%	25.0%
	H29	6	2	1	33.3%	16.7%
	H30	7	1	2	14.3%	28.6%
	R01				#DIV/0!	#DIV/0!
動機付け支援	H27	15	5	5	33.3%	33.3%
	H28	16	6	6	37.5%	37.5%
	H29	14	7	5	50.0%	35.7%
	H30	15	5	1	33.3%	6.7%
	R01				#DIV/0!	#DIV/0!



5. 指標の経年データ（様式 1）と判定

各指標の経年データについて、策定時と直近値を比較した判定結果を一覧に示す。A（目標値に達した）、B（目標値に達していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（判定不能）のレベルで評価判定し、課題整理を行う。

北中国支那環境保健事業計画（データヘルス計画）第 4 期中間評価・目的・目標指標の達成状況と判定

A（目標値に達した）
B（目標値に達していないが、改善傾向にある）
C（変わらない）
D（悪化している）
E（判定不能）

目的：今回の計画の目的は、生活習慣病を減らし、健康寿命の延伸である。

中期目標

	目 標	対 象 者	評価経年モニタリング					判 定
			指 標	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年 (直近の値)	
データヘルス計画 本文より	・脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病の被保険者に占める患者割合を10%減少させる ・メタボリックシンドロームの該当者割合を10%減少させる ・1人当たりの医療費を10%減少することを目指す	脳血管疾患患者	脳出血患者数 被保険者千人当たり新規患者数／被保険者数	2.7人 0.72%	0人 0%	2.9人 0.9%	6.1人 1.9%	D
			入院医療費(円)	0	0	0	861,800	
			脳梗塞患者数 被保険者千人当たり新規患者数／被保険者数	24.1人 6.4%	24.7人 6.9%	29.1人 8.6%	33.3人 10.1%	D
			389,800	1,233,980	1,345,400	5,111,450		
	虚血性心疾患患者	狭心症患者数 被保険者千人当たり新規患者数／被保険者数	40.2人 10.7%	46.7人 13.1%	43.7人 12.9%	30.3人 9.2%	C	
		入院医療費(円)	2,881,430	2,782,340	640,410	0		
		心筋梗塞患者数 被保険者千人当たり新規患者数／被保険者数	0人 0%	8.2人 2.3%	5.8人 1.7%	9.1人 2.8%	D	
	高血圧症患者	入院医療費(円)	0	0	144,540	1,635,180		
		高血圧症患者数 被保険者千人当たり新規患者数／被保険者数	155.5人 41.5%	120.8人 33.9%	99.0人 29.2%	102.9人 31.3%	D	
		脂質異常症患者 被保険者千人当たり新規患者数／被保険者数	109.9人 29.3%	96.1人 27.0%	78.6人 23.2%	102.9人 31.3%	D	
	糖尿病患者	糖尿病性腎症患者数 被保険者千人当たり新規患者数／被保険者数	115.3人 30.7%	90.6人 25.4%	90.3人 26.6%	75.7人 23.0%	A	
	メタボリックシンドローム の該当者割合 ①男 ②女	①33.3% ②7.7%	①28.8% ②8.1%	①33.3% ②12.1%	①30.9% ②7.5%	B		
	医療費 (1人当たり/月額)	医療費	35,988円	36,203円	44,071円	39,963円	B	

短期目標

	目標	対象者
データヘルス計画 本文より	・メタボリックシンドローム要因（高血圧症、脂質異常症、糖尿病、腹囲）の減少	
	○数値目標	
	特定健診での血圧、血糖（HbA1c）、脂質（LDL-C）、メタボリックシンドローム要因の有所見者割合を県平均以下とする	高血圧
	・収縮期血圧 男性：56.7%／49.5%（県） 女性：56.4%／41.7%（県） ・拡張期血圧 男性：21.7%／25.6%（県） 女性：19.2%／14.4%（県） ・HbA1c 男性：65.0%／62.2%（県） 女性：71.8%／64.9%（県） ・LDL-C 男性：40.0%／41.6%（県） 女性：57.7%／53.6%（県） ・中性脂肪 男性：30.0%／32.6%（県） 女性：26.9%／22.0%（県） ・腹囲 男性：53.3%／54.5%（県） 女性：15.4%／21.0%（県）	糖尿病
		脂質異常症
		メタボリックシンドローム

個別保健指導計画

事業名	目的	目標	対象者	評価経年モニタリング					判定	対策
				指標	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年 (直近の値)		
未受診者対策	健康意識の向上 健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少	40歳～74歳の未受診者	受診率 (KDBより把握)	47.4%	50.5%	50.4%	50.4%	B	目標に達していないが、平成28年度と比べると、受診率も向上しており、次年度は個別勧奨に力を入れていく。
若者健診	健康意識の向上 健康管理	若年者への受診を促す	18～39歳の国保加入者	受診率 (KDBより把握)	—	—	17.2%	17.2%	B	年齢に応じた個別勧奨に力を入れていく。
ハイリスク保健指導	病気の早期発見 早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率向上	要医療となった受診者	医療機関受診率 (KDBより把握)	58.7%	61.4%	60.1%	54.1%	D	医療機関に繋がるよう、通知、電話等を組み合わせた利用勧奨を実施する
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善	特定保健指導実施率向上と生活習慣の改善	特定保健指導対象者	保健指導実施率 (KDBより把握)	35.0%	35.0%	26.1%	38.9%	B	改善傾向にあるため、引き続き通知、電話等を組み合わせた利用勧奨を実施する。
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	20～50歳代を中心とした人々の生活習慣改善の機会となる	村民	改善意欲なしの割合(健診問診) ①男 ②女	①男50.8% ②女38.2%	①男51.5% ②女32.9%	①51.4% ②27.7%	①41.2% ②29.2%	B	改善傾向にあるため、引き続き健康教室等を実施して、目標達成に近づけていく。
健康チャレンジ	健康活動のきっかけ作り	多くの人が健康チャレンジに取り組む	20歳以上の村民	メタボリックシンドローム該当者の減少(健診問診) ①男 ②女	①男33.3% ②女7.7%	①28.8% ②8.1%	①33.3% ②12.1%	①30.9% ②7.5%	B	改善傾向にあるため、引き続き、事業を継続していく。
食生活改善推進事業	食生活の見直し機会を設ける	健康意識の向上を目指す	村民	運動習慣がない人の割合減少(健診問診) ①男 ②女	①男59.3% ②女67.1%	①59.1% ②71.2%	①72.2% ②67.7%	①77.9% ②76.9%	D	悪化傾向にあるが、普段受診しなかった人が受診したことも悪化の要因と考える。事業内容は検討する。
健診相談歩会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	健康への意識を高め、行動に繋がる	特定健診受診者及び健診結果説明会参加者	就寝前に夕食を取る人の割合減少(健診問診) ①男 ②女	—	—	①27.8% ②10.8%	①38.2% ②13.8%	D	悪化傾向にあるが、普段受診しなかった人が受診したことも悪化の要因と考える。事業は健康への正しい理解と生活習慣を促していきたいため、継続して実施していく。

※事業計画策定として、より詳細な目標設定と実施方法が記載されている。

事業	目的	目標	対象者	評価経年モニタリング					判定	対策
				指標	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年 (直近の値)		
その他の保健事業 COPD	「COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 第4版」(日本呼吸器学会 2013年4月発行)によると、タバコ煙はCOPDの最大の危険因子で、COPD患者の約90%に喫煙歴があるとされています。COPDの発症予防にはタバコ煙の暴露からの回避が重要であり、現在の青年期・壮年期の世代への生活習慣病の改善に向けた働きかけを重点的に行うことが大切。	評価に用いることが可能な指標として、健康・医療情報を活用して喫煙の有無(生活習慣の状況)を把握し、国の喫煙率以下を目標とします。	村民	入院外のレセプト件数	16.1	8.2	2.9	9.1	B	青年期及び壮年期を中心に、生活習慣病の改善に向けて個別勧奨していく。

6. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を踏まえて、関係機関と共有するために介護の有病状況を経年的に表示する。

医療保険が北川村の国保と後期である介護認定者のみを集計し、レセプトの診断名より重複して計上している。赤色は血管疾患、重症化した疾患として循環器疾患と生活習慣病の基礎疾患を表示している。他、フレイル関連疾患として認知症、筋・骨格疾患、歯肉炎歯周病を表示する。

- ※ 認知症とは ICD10 コードにおける F00:アルツハイマー病の認知症、F01:血管性認知症及び詳細不明の認知症、F02:その他の疾患の認知症、F03:詳細不明の認知症。
- ※ 筋・骨格系とは ICD10 コードにおける M00～99:筋骨格系及び結合組織の疾患であり、M00～25:関節障害、M30～36:全身性結合組織障害、M40～54:脊柱障害、M60～79:軟部組織障害、M80～94:骨障害及び軟骨障害、M95～99:筋骨格系及び結合組織のその他の障害。

血管疾患全体でみると、割合は減少しているが、循環器疾患では、脳血管疾患、腎不全が増加している。

基礎疾患では、糖尿病、高血圧症、脂質異常症で増加が見られる。

また、認知症、歯肉炎歯周病の割合も増加している。

これらの疾患を予防するには、若い世代からのアプローチが大切である。

介護認定者の経年有病状況【年齢区分別】

		年 齢	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和1年度					
被保険者数 (国保と後期の各年齢区分被保険者数)		40～64歳	144		135		119		109					
		65～74歳	209		206		203		198					
		75歳以上	379		376		377		366					
		合 計	732		717		699		673					
認定者数		40～64歳	2		0		0		0					
		65～74歳	4		4		7		7					
		75歳以上	90		95		96		80					
		合 計	96		99		103		87					
認定率(認定者数/被保険者数)		40～64歳	1.4%		0.0%		0.0%		0.0%					
		65～74歳	1.9%		1.9%		3.4%		3.5%					
		75歳以上	23.7%		25.3%		25.5%		21.9%					
		合 計	13.1%		13.8%		14.7%		12.9%					
有 病 状 況 (レセプトの診断名より重複して計上)	循環器疾患	脳血管疾患	40～64歳	1	50.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	2	50.0%	2	50.0%	3	42.9%	4	57.1%	P値(増加)	0.848	
			75歳以上	51	56.7%	53	55.8%	53	55.2%	48	60.0%	P値(増加)	0.716	
			合 計	54	56.3%	55	55.6%	56	54.4%	52	59.8%	P値(増加)	0.709	
		脳出血	40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	P値(増加)	0.848	
			75歳以上	2	2.2%	0	0.0%	3	3.1%	4	5.0%	P値(増加)	0.133	
			合 計	2	2.1%	0	0.0%	3	2.9%	5	5.7%	P値(増加)	0.066	
		脳梗塞	40～64歳	1	50.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	2	50.0%	2	50.0%	3	42.9%	4	57.1%	P値(増加)	0.848	
			75歳以上	50	55.6%	53	55.8%	52	54.2%	46	57.5%	P値(増加)	0.879	
			合 計	53	55.2%	55	55.6%	55	53.4%	50	57.5%	P値(増加)	0.862	
		虚血性心疾患	40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	3	75.0%	3	75.0%	3	42.9%	4	57.1%	P値(減少)	0.424	
			75歳以上	44	48.9%	46	48.4%	43	44.8%	38	47.5%	P値(減少)	0.726	
			合 計	47	49.0%	49	49.5%	46	44.7%	42	48.3%	P値(減少)	0.744	
		腎不全	40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	1	25.0%	1	25.0%	2	28.6%	2	28.6%	P値(増加)	0.875	
			75歳以上	40	44.4%	45	47.4%	52	54.2%	42	52.5%	P値(増加)	0.187	
			合 計	41	42.7%	46	46.5%	54	52.4%	44	50.6%	P値(増加)	0.192	
		人工透析	40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	
			75歳以上	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.3%	P値(増加)	0.177	
			合 計	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.1%	P値(増加)	0.183	
		血管疾患	糖尿病	40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				65～74歳	4	100.0%	4	100.0%	6	85.7%	5	71.4%	P値(減少)	0.133
				75歳以上	63	70.0%	63	66.3%	65	67.7%	58	72.5%	P値(増加)	0.715
				合 計	67	69.8%	67	67.7%	71	68.9%	63	72.4%	P値(増加)	0.686
			腎症	40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				65～74歳	1	25.0%	1	25.0%	1	14.3%	1	14.3%	P値(減少)	0.587
				75歳以上	2	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	P値(減少)	0.464
				合 計	3	3.1%	1	1.0%	1	1.0%	2	2.3%	P値(減少)	0.653
			網膜症	40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				65～74歳	1	25.0%	1	25.0%	2	28.6%	2	28.6%	P値(増加)	0.875
				75歳以上	7	7.8%	5	5.3%	5	5.2%	6	7.5%	P値(減少)	0.910
				合 計	8	8.3%	6	6.1%	7	6.8%	8	9.2%	P値(増加)	0.810
			神経障害	40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				65～74歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
				75歳以上	1	1.1%	1	1.1%	0	0.0%	1	1.3%	P値(減少)	0.840
				合 計	1	1.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	1.1%	P値(減少)	0.828
			高血圧	40～64歳	2	100.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				65～74歳	3	75.0%	4	100.0%	5	71.4%	6	85.7%	P値(増加)	0.964
				75歳以上	80	88.9%	87	91.6%	90	93.8%	73	91.3%	P値(増加)	0.464
				合 計	85	88.5%	91	91.9%	95	92.2%	79	90.8%	P値(増加)	0.577
			脂質異常症	40～64歳	1	50.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				65～74歳	2	50.0%	2	50.0%	4	57.1%	4	57.1%	P値(増加)	0.779
				75歳以上	64	71.1%	67	70.5%	66	68.8%	58	72.5%	P値(増加)	0.937
				合 計	67	69.8%	69	69.7%	70	68.0%	62	71.3%	P値(増加)	0.919
	高尿酸血症		40～64歳	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	2	50.0%	2	50.0%	3	42.9%	2	28.6%	P値(減少)	0.445	
			75歳以上	58	64.4%	59	62.1%	56	58.3%	49	61.3%	P値(減少)	0.547	
			合 計	60	62.5%	61	61.6%	59	57.3%	51	58.6%	P値(減少)	0.471	
	血管疾患合計		40～64歳	2	100.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	4	100.0%	4	100.0%	6	85.7%	6	85.7%	P値(減少)	0.331	
			75歳以上	89	98.9%	94	98.9%	95	99.0%	78	97.5%	P値(減少)	0.483	
			合 計	95	99.0%	98	99.0%	101	98.1%	84	96.6%	P値(減少)	0.197	
	認知症		40～64歳	1	50.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	1	25.0%	1	25.0%	1	14.3%	1	14.3%	P値(減少)	0.587	
			75歳以上	45	50.0%	49	51.6%	52	54.2%	47	58.8%	P値(増加)	0.237	
			合 計	47	49.0%	50	50.5%	53	51.5%	48	55.2%	P値(増加)	0.407	
	筋・骨格疾患		40～64歳	2	100.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	3	75.0%	3	75.0%	6	85.7%	6	85.7%	P値(増加)	0.587	
			75歳以上	88	97.8%	94	98.9%	95	99.0%	78	97.5%	P値(減少)	0.928	
			合 計	93	96.9%	97	98.0%	101	98.1%	84	96.6%	P値(減少)	0.930	
	歯肉炎歯周病		40～64歳	1	50.0%	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
			65～74歳	3	75.0%	3	75.0%	4	57.1%	6	85.7%	P値(増加)	0.784	
			75歳以上	37	41.1%	46	48.4%	49	51.0%	44	55.0%	P値(増加)	0.066	
			合 計	41	42.7%	49	49.5%	53	51.5%	50	57.5%	P値(増加)	*0.004	

※医療保険が北川村の国保又は後期である介護認定者のみ集計

7. 中間評価の結果をふまえた課題整理

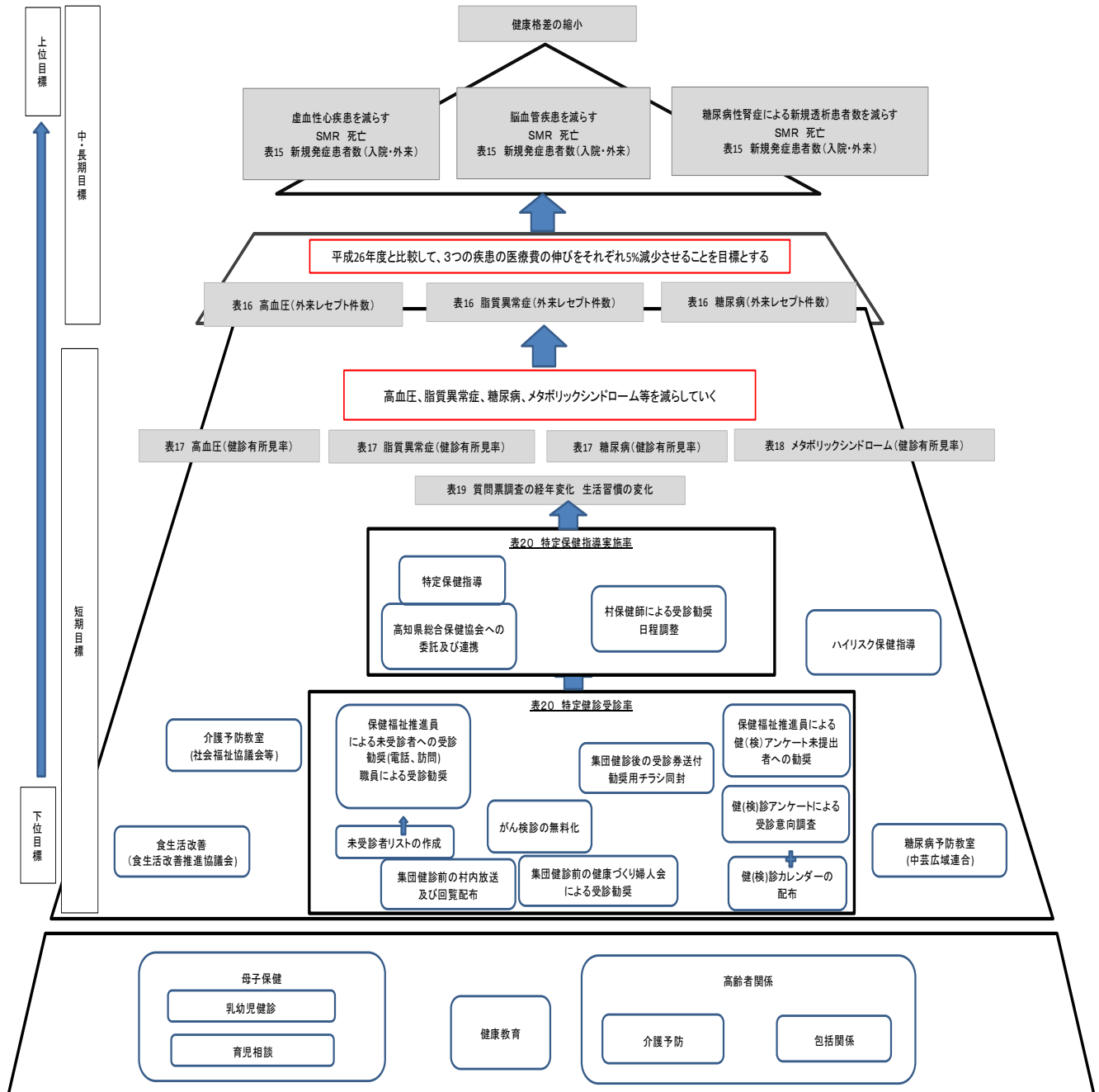
進捗管理・中間評価の結果をふまえた課題と対策について下記の一覧に示す。

課題	対策
特定健診受診率の目標達成	保健福祉推進員による個別受診勧奨に力を入れる。年度にとって、受診にバラつきがある方の特徴を分析し、継続受診に努める。
保健指導実施率の目標達成	勧奨方法を見直し、実施率の向上に努めていく。電話勧奨や、個別勧奨を強化し利用に繋げる。
健康活動に取り組む人の割合が低い（30分以上の運動）	健康チャレンジの普及啓発及び取り組みの強化 広報、イベント、地域の集いへ参加し、健康チャレンジの取り組みを随所にPRしていく。
脂質異常症の増加（中性脂肪150以上・LDL-C120以上）	まずは、健診結果説明会に参加し、自分の体の状態を知ってもらうことから始める。健診結果説明会の内容、周知方法を検討していく。
高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施	若い世代からのアプローチによって予防可能な疾患（糖尿病、高血圧症、脂質異常症）で増加が見られるため関係機関と連携し、事業実施を検討する。

8. 事業体系図・他事業との連動（様式2）の追加修正

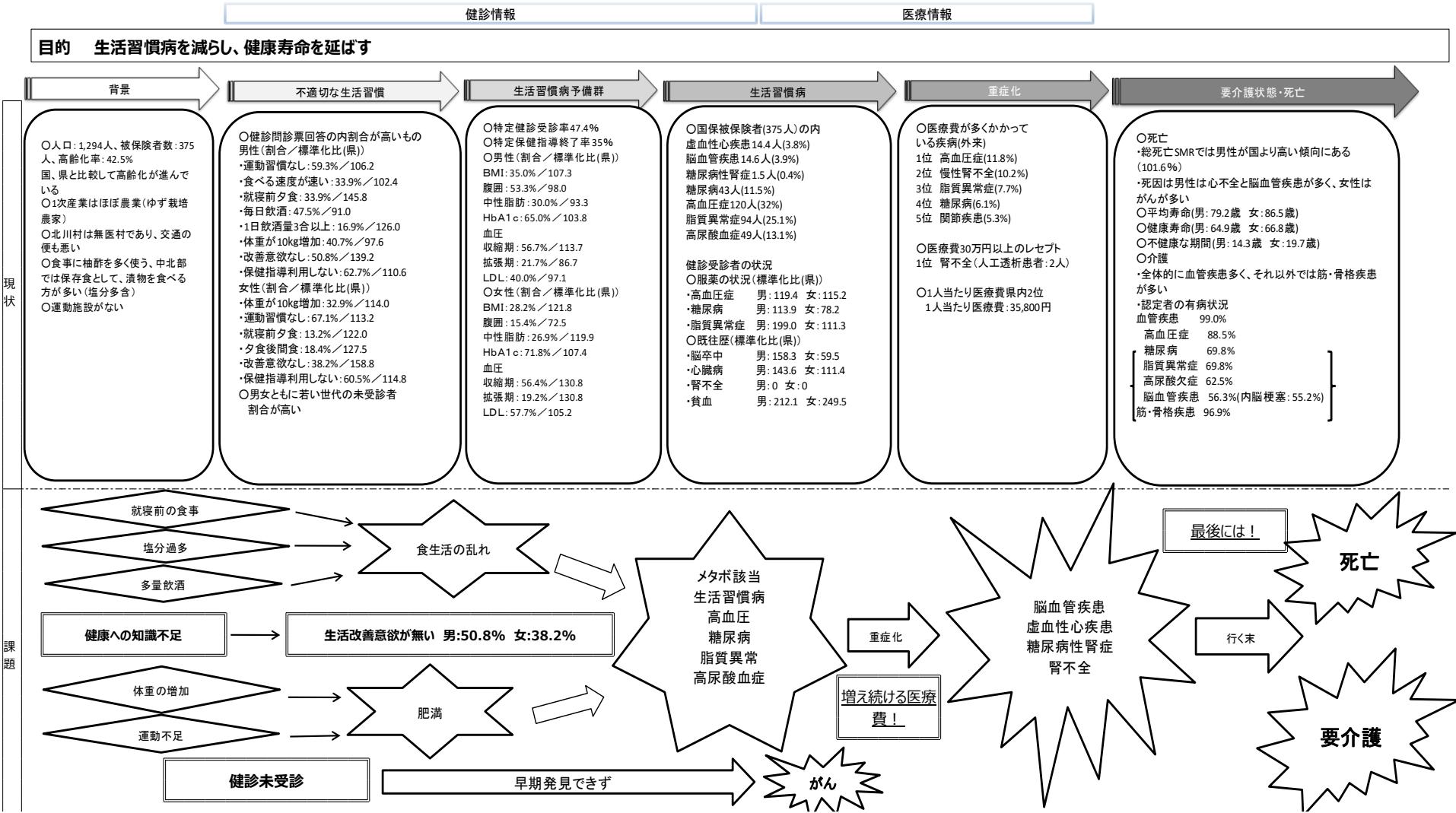
国保保健事業以外の北川村の他事業との連動を体系図として示す。庁内や関係機関・団体との連携を強化・共通認識を持つための資料とする。

データヘルス計画から上位目標を達成するために下位目標の確認



9. 国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）第2期中間見直しにおける概要図

KDB等の分析をもとに考えた北川村の生活習慣病予防に係る活動



10. 計画全体についての中間評価

ストラクチャー	プロセス	アウトプット	アウトカム
毎年度、国保部門、衛生部門で目標に向かったの全体の事業体の確認(P38. 8 事業体系図・他事業との連動(様式 2))を行い、必要な事業予算や人員配置などの確保を毎年行えた。 目標達成に向けて、保健福祉推進員による未受診者への個別受診勧奨を引き続き強化していく。 また、今後受診率アップに伴い、保健事業対象者の増加が見込まれることから各個別保健事業における人員体制・確保についても毎年確認していく。	計画作成における健診・医療・介護データの集計については、KDB データを活用し、関係機関や事業担当者間で経年結果(P34. 5 指標の経年データ(様式 1)と判定)を確認、要因分析(P31. 7 中間評価の結果をふまえた課題整理)を行い、今後の対策として既存事業の見直しを行った。 また、事業内容として修正箇所については、支援評価委員会の助言を得て修正を行う。	計画策定時の個別保健事業は概ね実施できている。 平成 30 年度から、健康活動の取り組みとして、県の健康パスポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開している。幅広い層の参加に向けて、啓発方法等引き続き検討する。	計画策定時からの経年経過では全ての項目において概ね患者数・割合ともに減少傾向にあるが、目標値のまで達成できていないため最終評価までこの目標値を継続する。 また、基礎疾患を予防するには、若い世代からのアプローチが大切であるため、50～60 歳台を中心に健診未受診者への受診勧奨を強化する。